

本文 メナシサムの厚司メナシサムの帽子 (2)

第1章 山頂での暮らし

1-1 山頂への道

- 4559 hontomo ta
p.101 ホントモ タ
その半ばに
そのとたんに
- 4560 okkaipo utar hene
オッカイポ ウタラ ヘネ
男+(指小辞) たち でも
青年たちや
- 4561 menokopo utar
メノコポ ウタラ
女+(指小辞) たち
娘たちが
- 4562 chiminako-
チミナコ
~こと 笑いと共に
笑みを
- 4563 suiba kane,
スイバ カネ
を揺らす(suye 複) 状態で
浮かべて
- 4564 shino nubetne tura
シノ ヌベツネ トウラ
本当に 喜び と共に
ほんとうに喜びながら
- 4565 ukataterke
ウカタテレケ
互いに上に跳ぶ
押し合いへし合い
- 4566 wa sap hine,
ワ サブ ヒネ
して 出て来る して
しながら浜に出てきて、
- 4567 raboki ta
ラボキ タ
~している間 に
そのあいだに、
- 4568 kamui ne am be
カムイネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方は
- 4569 kani bosh toko ※1
カニ ボシトコ
金の ほかい
金蒔絵の行器
- 4570 ubush ※2 amba kane
ウブシ アムバ カネ
一揃い 手に持つ 状態で
ひとそろいを手に持って
- 4571 iyaikoshiren. ※3
イヤイコシレン
我を・自身と共に 自分に添う
わたしを手招きました。
- 4572 Hoshkino
ホシキノ
最初に
まず先に
- 4573 ya oterke
ヤ オテレケ
陸地 を踏みつける
彼が上陸し
- 4574 moire apkash
モイレ アツカシ
遅い 歩み
ゆったりとした歩み
- 4575 koshiattem-
コシアツテム
で自分の 片腕
で片手を
- 4576 suiba kane.
スイバ カネ
振る(suye 複) 状態で
振っています。

- 4577 Ekaichish tapka wa
エカイチシ(←ヘ カイチシ) タツカ ワ
頭が折れている岩山 肩 上 から
頂上が少し平らな険しい岩山の上から
- 4578 ran kororo
ラン キロロ
下る その大路
浜手に下る大路が
- 4579 oturushittok
オトウル シットク
幾つも重なる二つの 道 肘
幾重にも肘のように
- 4580 kaiba kane
カイバ(←kaye 複) カネ
折れる 状態
何重にも折れ曲がった道
- 4581 orerushittok
オレル シットク
幾つも重なる三つの 道 肘
幾重にも
- 4582 kaiba kane.
カイバ(←kaye 複) カネ
折れる 状態である
九十九折りに折れています。
- 4583 Shiran chiki
シラン(←シリ アン) チキ
様子 ある から
そのようだから
- 4584 ru tuikashi
ル トウイカシ
道 の上
その道を
- 4585 urekushte
ウレ クシテ
足を通らせる
通って
- 4586 setur kashike
セトウル カシケ
背 の上に
あとへすぐびつたり
- 4587 a-yairarire.
アヤイラリレ
我は・自分を押しつけさせる
わたしは付き従いました。

1-2 山域に到着する

- 4588 Ekaichish tapka ne
エカイチシ(←ヘ カイチシ) タツカ ネ
頭が折れている岩山 肩 上 に
険しい山頂に
- 4589 a-koshireba wa
アコシレバ(←シリ エバ) ワ
下る その大路
わたしが到着して
- 4590 inkar-an ko,
インカラン(←インカ アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 4591 tam boro chise
タム(←タン) ボロ チセ
この大きな 家
この大きな家
- 4592 tam boro chashi
タム(←タン) ボロ チヤシ
この大きな 砦
この大きな山城が
- 4593 uworeroshki,
ウウオロロシキ(←ウ オロシキ)
互いの中 そこにたくさん立てる
重なり立っており、
- 4594 soike sama
ソイケ サマ
外 の側
外観を
- 4595 atomte kashba
アトム テ カシバ
人が光らせる 過ぎる
美しく飾り付けられて
- 4596 usa huihuinake
ウサ フイフイナケ
色々 どこかここかの方の 所
何から何まで
- 4597 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
いい その事実
美しいその様に
- 4598 an-erayap.
アネラヤッ(←アン エラヤッ)
我は・~を感心する
つくづく感心しました。
- 4599 Oribak kuni p
オリバク クニ ッ
へりくだる べき 者
慎み深い
- 4600 a-ne kusu,
アネ クス
我・である 故に
わたしですから、
- 4601 chashi teksam ne
チャシ テクサム ネ
山城 すぐ傍 に
山城のわきに
- 4602 a-shike
アシケ
わが・その荷物
わたしの嫁入り道具
- 4603 a-eantekar,
アエアンテカラ
我は・そこに置く(他動詞語尾)
を置き、
- 4604 nei samake ta
p.102 ネイ サマケ タ
その 側の所 で
そのそばで

※1 「←poi shintoko←pon shintoko<小さい 行器>「しんとく」は<行器>の北陸方言、アイヌに入って shintoko となったもの。金蒔絵の漆器。土器石器の人たちの間へ入って行って宝什化したもの(金 I-348)、<小・行器>小行器(金 I-111)」

※2 ubush「物の集合の意」(金 I-206)、poshtoko ubush「萱野茂訳」<揃いの行器>(教Ⅲ-66)

※3 Iyaiko-shi-ren<自身と共に・自分に添ふ>一所に「行かうとす」ある。(研652)

- 4605 otop chinki
オトフ チンキ
髪の毛の裾
髪の毛の裾はしを
- 4606 aneshitchiure
アネシッチウレ(←アン エ シリ チウレ)
我は、そのの 地 に刺させる
- わたしは^{はか}床につけ
- 4607 kane anan.
カネ アナン(←アン・アン)
状態で いる・我は
てかしこまって座っていました。

1-3 美しく若い女性

- 4608 Kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方は
- 4609 shiaworaiba※,1
シアウオライバ(←siaworaye 内へ入って来る複製形)
自身 内 にやる
屋内に入り、
- 4610 eebakiun
エエバキウン
次-(強め辞)
その次に
- 4611 kakanan kuni p
カナカン(←カナッアン) クニ ッ
どうある はずの もの
どなたか
- 4612 tura eashka
トゥラ エアシカ
と一緒に 本当に
と
- 4613 uwepak noine
ウエカプ(←ウ エカプ) ノイネ
互いに 挨拶する らしく
あいさつの礼をかわずらしい
- 4614 hawash aine,
ハワシ アイネ
言う してから
声がしてから、
- 4615 ponno shirantek ko
ボンノ シラン(←シリアン) テク コ
少し 時空 ある ちよつと~すると
少し経つと
- 4616 kakanan kuni p
カナカン(←カナッアン) クニ ッ
どうある はずの もの
どなたかは
- 4617 upsor ikor※2
ウブソロ イコロ
ふところ 宝
胸の玉飾りを
- 4618 kotununatki kane
コトウヌナツキ(←コトウヌン アツキ) カネ
共に チャリン 幾つも鳴る 状態で
チャリンチャリン鳴らしながら
- 4619 chihoyubure
チ ホユブレ
自身を 走らせ
駆け出し
- 4620 chisoyekatta.
チ ソイ エカッタ
自身を 外 に突進させる
外に飛び出してきました。
- 4621 Inkar-an ko,
インカラン(←インカラ アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 4622 ponurar tapkop
ポヌラ(←ボン ウラ) タポコフ
小さい 霞 孤峰
霞の丸い小山が
- 4623 chishiruture.
チ シルトウレ
自身が 自分 を寄せる させる
静かに寄ってきました。
- 4624 Urar tumu
ウララ トウム
かすみ の中
そのもやを
- 4625 a-shikechari
アシケチャリ(←ア シクエ チャリ)
我が・目 でもって 散らし
眼力でもってうち払って

- 4626 inkar-an awa,
インカラン(←インカラ アン) アワ
見・我が たどころが
わたしが見ると、
- 4627 pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性
- 4628 okai nankora !?
オカイ ナンコラ(←ナンコ ヤ)
ある だろう か
なのでしょうが。
- 4629 Tamba newa
タムバ(←タン バ) ネワ
今 年 になつて
この年では
- 4630 ponno i-turbokashno
ボンノ イトル ボカシノ
少し 我に・垢 足りない
ほんの少しわたしより年下
- 4631 chishikupka
チ シクブカ
自身を 成長させる
くらしいの
- 4632 kotomno okai be,
コトム ノ オカイ ベ
ように見える(副詞語尾) ある 者
ように見える方が
- 4633 chitomteresup
チトム テレスフ
自身を 光らせ 育つた 者
大切に育てられ
- 4634 chiara reshup
チ アラ レシュフ
自身を 飾り 育つた 者
美しく育てられた者
- 4635 sone kusu,
ソネ クス
真である 故に
にちががなく、
- 4636 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神の 刺繍衣
神々しい刺繍着や
- 4637 kani chikirbe
カニ チキリベ
金の 刺繍衣
色とりどりの豪華な刺繍着
- 4638 arutomechiu,
アルトメチウ(←アラ ウトム エチウ)
全く互いに 中に差す
を襲ね着し、
- 4639 eashka
エアッカ
本当に
それこそ
- 4640 kisar kashike
キサッ カシケ
耳 の上
耳や
- 4641 rekut kashike
レクツ カシケ
のど の上
胸元には
- 4642 kamui machikor
カムイ マチコロ(←マツ イコロ)
神の 女 宝物
神々しい耳輪や首飾り
- 4643 koikatara,※3
コイカタラ
共に あふれる 状態だ
をぞっくりとつけ、
- 4644 kamui otobi
カムイ オトビ
神 の髪の毛
美しい髪の毛は

※1 shiaworaiba| sni-au-o-rye <自身を・内・
に・遣る>屋内へ自身をやるとは、すなわち、屋
内へ入り来る、屋内へ入り行くをいう」(金1-81)

※2 「婦女の賣は、首へかけて胸へ垂らせる佩玉であるが tamasaye(玉を綴った部分)と snitoki(鏡の形をした圓形の金板、若くは鍔の薬)とから成
り、それに銀環を添へて貫く。」(研669)

※3 原綴 koikata-のみ。

4645 sarambe kunne
サラムベ クンネ
絹糸のように
絹糸のように
4646 ekimui kashi
エキムイ カシ
その頭の上に
その頭上に
4647 chiesurure.
チエスルレ
られるそこに広がらせる
広がっておおいかぶさっています。

1-4 可愛い妹

4648 Otasam un kuru
p.103 オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびと
4649 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方と
4650 shikbui un ruwe
シクブイ ウン ルウエ
眼 孔 はまる その様
目つきや
4651 rachiu un ruwe
ラチウ ウン ルウエ
眉 はまる その様
眉つきが
4652 horkasuye kane,
ホロカスイエ カネ
逆に 振る 状態で
そっくりそのままで、
4653 enewaboka
エネ フ ボカ
いかにして さえも
どうともこうとも
4654 arekaika-
アレカイカ
我ら・ほめる 手段も
これ以上ほめる言葉も
4655 isam kane.
イサム カネ
無い 状態だ
見つからないほどの美しさです。
4656 lkoshikraiba
イコシクライバ
我に・向かって 目をやる(sikraye 複)
わたしに眼を向け、
4657 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの もや 中心
わたしを包む濃いもやの
4658 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
3段つのもや 中心
真ん中に向かつて
4659 i-kocharikar.
イコチャリカラ
我・に向かつて 散らす+(他動詞語尾)
わたしのもやを散らしました。
4660 Ene pirika
エネ ビリカ
こうも 美しい
こんなにも美しい
4661 ruwe okai be
ルウエ オカイ ベ
その様 ある 者
ご様子のお方が
4662 hemshiehose
ヘムシエホセ
(否定) 自分 へ背を向ける
ご自分をさしおいてあべこべに
4663 eashka
エアシカ
本当に
それこそ
4664 i-reka kotomno
イレカ コトムノ
我を・褒める ように見える+(副詞語尾)
わたしを称賛するように
4665 i-kichi kane
イキチ カネ
我に・ki'する' 複数形 状態で
わたしを見て、

4666 "sapo!" ari
サポ アリ
姉さん と
「お姉さまあ」と
4667 itak kane
イタク カネ
言う 状態で
言って、
4668 a-temnikoro
アテム ニコロ
我が・両腕の間
わたしの腕の中に
4669 yayomare.
ヤヨマレ(←ヤイ オマレ)
自身を に入れる
に飛び込んできました。
4670 Shiriki chiki,
シリキ チキ
その様をする から
そうするから、
4671 ibashterambo※1
イバシテラムボ
物に 走らせる 心+(指小辞)
なおさらなつかしく親しい気持ち
4672 a-yaikore,
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
をおぼえ、
4673 "Matakpo! Sambe!" ari
マタポ サムベ アリ
妹+(親称接尾辞) 心臓よ と
「可愛い妹よ、いとしい子よ」と
4674 itak-an kane,
イタクアン(←イタク アン) カネ
言う・我が 状態で
わたしは言いながら、
4675 a-shikoruye,
ア シコルイエ
我は・自分 の方へ しめつける
彼女を抱きしめ、
4676 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互い ほどに
かわるがわる
4677 a-santek kashii
ア サンテカ カシ
我らの 前へ出る 手 の上
わたしたちは頭から腕にかけて
4678 a-ukoruyekar kane
ア ウコルイエカラ カネ
我らは・互いに 撫でる させる 状態で
撫でさすり合い手を取り合って
4679 uwepak-an
ウエカフアン(←ウ エカフ アン)
互いに 挨拶する・我らは
あいさつの礼をかわし、
4680 uchishkar-an.
ウ チシカラアン
互い・泣く させる・我らは
泣きながら喜び合いました。
4681 Tap orowa
タッ オロワ
それ から
それから
4682 a-santekebo
ア サンテケボ
我が・出る その手+(指小辞)
彼女はわたしの手
4683 amba kane
アムバ カネ
手に持つ 状態で
をとって、
4684 a-shikehe
アシケヘ
我が・その荷物
わたしの荷物を

※1「<物を、物に・駈らす・心・(指小辞)>>早く感ずる心の意(667); <物を・発見する・心・(指小辞)> 今まで知らなかったことを初めて知った(金III-98); <物を・見出す・心・(指小辞)>うれしい心、なつかしい気持ち(金III-140)」

- 4685 sei kane
セイ カネ
背負う 状態で
背負って
- 4686 mosem tuyor
モセム トウヨロ(トウイ オロ)
玄関納屋 腹中
入り口の土間
- 4687 a-eshikirba.
ア エシキルバ
我らは・そこに 自分を回す(←sikiru 複)
に入っていました。

1-5 素晴らしき住まい

- 4688 Mosem orwano
モセム オロワノ
玄関納屋 の所から
入り口土間の所で
- 4689 chise upsor wa
チセ ウッソロ ワ
家 様 から
家の中から
- 4690 kamui hura
カムイ フラ
神の 香り
神の 香気
- 4691 tomi hura
トミ フラ
富 の匂い
宝器の 芳香が
- 4692 rui rera ne
ルイ レラ ネ
強い 風 のように
烈風のように
- 4693 i-emaknakur
イエ マクナクル
我らを そこから 後の 方(助辞)
わたしたちを たじたと
- 4694 raiba kane.
ライバ カネ
やる(←raye 複) 状態だ
ずさりさせました。
- 4695 Ratki aba※1
ラツキ アバ
垂れている 戸
母屋入り口のすだれ
- 4696 kotekturi
p.104 コ テクトウリ
に 手を伸ばす
に手をかけて
- 4697 omausibare,
オ マウスイバレ
そこから 気を揺すらせる
フワリと揺るがし、
- 4698 mintar ka ta
ミンタカ タ
内土間 上 に
内土間に
- 4699 a-rutkosamba.
アルッコサムバ
我らは・圧す ばつとする
わたしたちは サツと 入って 行きました。
- 4700 Chise upsoro
チセ ウッソロ
家 その様
家の中深く
- 4701 kunne urar
クンネ ウララ
黒い 霧
黒いもや
- 4702 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白いもやが
- 4703 eetushnatki kane,
エ エトウシナツキ カネ
そこが それで あふれる 状態で
いっぱい にみちあふれていて、
- 4704 Urar tumu
ウララ トウム
霧 の中
もやの中に
- 4705 chiareabe※2 tom
チ アレ アベ トム
ている 焚く 火 光る
炉の 焚き火 がピカッと 光つ

- 4706 kane shiran.
カネ シラン
状態である ようだ
ている ようです。
- 4707 Harkiso ne i-eare.
ハラキソ ネ イエアレ
左座 に 我を・そこに 座らせる
左座に 彼女はわたしを 座らせました。
- 4708 Ponno shirantek ko
ポンノ シラントク(←シリ アン テク) コ
少し 時空 ある ちよつと〜する と
少し経つと
- 4709 urar hechawe.
ウララ ヘチャウエ
霧 ほごれる
もやが 薄れました。
- 4710 Otop chinki
オトッ チンキ
髪の毛 の 裾
頭を深く
- 4711 an-eshitchiure,
アネシッチウレ(←アン エシリ チウレ)
我は・〜を 大地 に刺させる
垂れ、
- 4712 oribak-an wa
オリバク アン ワ
かしこまつ・我は して
行儀よく かしこまつて
- 4713 an-an koroka※3
アナン(←アン アン) コロカ
いる・我は けれども
いたけれど、
- 4714 otopkaurur
オトプカ ウトウル
髪の毛 すじの間
髪の毛の すきま
- 4715 an-ebekare wa
アネベカレ(←アン エベカレ) ワ
我は・そこから 向わ せて
から そつとの そいで
- 4716 inkar-an ko,
インカラン(←インカ アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 4717 iyainumare !
イヤイヌマレ
我に 自ら 起き上がら せる
まあ 驚いた!
- 4718 a-ewak ushike hene
アエワク ウシケ ヘネ
我が・住む いつも〜する 所 でも
わたしの 住まいや
- 4719 Iyochi un
イヨチ ウン
イヨチに住む
イヨチの
- 4720 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神の ようなお方の
- 4721 ewak ushike hene
エワク ウシケ ヘネ
住む いつも〜する 所 でも
お住まいも
- 4722 sonno pirika ruwe
ソンノ ビリカ ルウエ
本当に 立派な その 事実
これほど 立派な 館は
- 4723 a-i-y-etuima-
アイエトウイマ
我は・彼・について 遠く
遠近を探しても あるまいと
- 4724 hunara rokwa,
フナラ ロクワ
探した ところが
思っていたの に、

※1 原綴 aba 欠落。

※2 「ci-ari-apeくわれら・焚いた・火」《沙流方言》焚き火(語法)

※3 koroka は原綴のママ。以下同じ。

- 4725 ekasu kuni p
エカス クニッ
それを越えるべき者
それに優る
- 4726 ne nankora !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
か、
- 4727 eturbak kuni p
エトウルバク クニ ッ
それに匹敵するはずのもの
同程度の美しさ
- 4728 ne nankora !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
でしょうか。
- 4729 Tam boro chise
タム(←タン) ボロ チセ
この大きな家
この大きな家の
- 4730 iyoma ruwe
イヨマ(←イオマ) ルウェ
物入る その事実
調度品が
- 4731 usa huihuinake
ウサ フィフイナケ
色々どこかどこかの方の所
何から何まで
- 4732 a-tomte ruwe
アトム テ ルウェ
人が光らせる その事実
美しく飾られているようすは
- 4733 a-erayapkašba.
アエラヤッカシバ
我は・それに感嘆する 過ぎる(←kasu 複)
あまりにも素晴らしい。
- 4734 Ikit tukari
イキツ(←イキ) トウカリ
列 近く
宝壇そばに
- 4735 chituye amset
チトウイェ アムセツ
られた切りと高床
1段高くつくられた
- 4736 kani amset
カニ アムセツ
黄金の台座
立派な台座が
- 4737 chieturi,
チエトウリ
ているそこに伸びる
伸びており、
- 4738 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方が
- 4739 kurkashike
ク、カシケ
その上面一帯
その上
- 4740 ehorari.
エホラリ
そこに尻を押さえる
に座っていました。

1-6 オタサムびとの提案

- 4741 Orowano
p.105 オロワノ
それから
それから
- 4742 inne utar
インネ ウタラ
大勢の人々
大勢のひとたちが
- 4743 chise uporo
チセ ウッソロ
家 その儼
家の中の
- 4744 rorunso ka shikno
ロルンソ(←ロロ ウンソ) カ シクノ
上座の座 上 いっぱいに
いろいろと東窓の間の上座いっぱい
- 4745 usa tonoto rura,
ウサ トノト ルラ
種々の酒を運ぶ
酒などを運び入れ、
- 4746 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方が
- 4747 ene itak i;
エネ イタッ イ
こう 言う こと
言うことには、
- 4748 "Koninkar kusu !
コニンカラクス(←コン インカラ クス)
早く！見る+(感嘆の助詞)
- 「これこれ、
- 4749 A-utar utar !
アウタラ ウタラ
我が・同族 たち
我が同族たちよ。
- 4750 Tane nani
タネ ナニ
今 すぐに
すぐにも
- 4751 kamuinomi-an
カムイノミ アン
神をまつる・我は
カムイノミ(神々に御神酒を捧げ祈禱する)をし
- 4752 rusui koroka,
ルスイ コロカ
を欲する けれども
たいのだが、
- 4753 shino shinki-an
シノ シンキ アン
真に 疲れる・我は
あまりにもわれはくたびれ
- 4754 kasui.
カスイ
過ぎる
すぎている。
- 4755 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それゆえ
- 4756 tutko bakno
トウツコ バクノ
二日 ほど
二日ほど
- 4757 shiran ko,
シラン コ
その様にある と
たつたら
- 4758 sam tonoto
サム トノト
隣の酒
倭人の酒

- 4759 a-ekamuinomi
アエカムイノミ
我らは・それでもって 神をまつる
でカムノミを
- 4760 sonno shine utar
ソンノ シネ ウタラ
真の 一 仲間
本当の一族
- 4761 ne batek ne
ネ バテク ネ
で のみ で
だけで
- 4762 a-ki orowa
アキ オロワ
我らは・する それから
してから、
- 4763 naa ponno shiran
ナア ポンノ シラン
もう 少し その様にある
もう少したつ
- 4764 ko orowa sonno
コ オロワ ソンノ
と それから 本当の
てから、真の
- 4765 ainu buri ne
アイヌ ブリ ネ
アイヌ作法で
アイヌ風の
- 4766 shiroma tonoto
シロマ(←シリ オマ) トノト
地 入る 酒
本式の酒を
- 4767 a-kar kusu ne.
アカラ クス ネ
我は・造る つもりである
醸すことにしよう。
- 4768 Orota tapne
オロタ タッネ
そこで こう
そこに
- 4769 tuimano okai
トゥマノ オカイ
遠くに いる
遠方の
- 4770 a-utari utar
アウタリ ウタラ
わが・同族 たち
わが親戚身内たち
- 4771 hankeno okai
ハンケン オカイ
近くに いる
近隣近在の
- 4772 a-utari utar
アウタリ ウタラ
わが・同族 たち
親戚身内たち
- 4773 obittano
オビッタノ
皆
全部
- 4774 a-tak wa, sonno
アタク ワ ソンノ
我は・招待して 本当の
招待して本式の
- 4775 kamuinomi hemem
カムイノミ ヘMEM
神を祀る でも
カムイノミや
- 4776 shinurapba hemem
シヌラッパ ヘMEM
先祖祀り でも
先祖供養を
- 4777 a-ki kush ne."
アキ クス ネ
我は・する つもりである
するつもりである」

- 4778 ari hawash chiki,
アリ ハワシ チキ
と 言う から
とおっしゃったから、
- 4779 inne utar shino
インネ ウタラ シノ
大勢の 人々 本当に
人々はほんとうに
- 4780 nubetne tura
ヌベツネ トウラ
喜び と共に
喜びながら
- 4781 chisoinaraiiba.
チソイナライバ
自身を外の方 raye 'へやる' 複数形
外に出てきました。

1-7 もてなしと拝礼

- 4782 Pom menoko eashka
ポム(←ボン) メノコ エアシカ
若い 女 本当に
若い女性は本当に
- 4783 nubetne tura,
ヌベツネ トウラ
喜び と共に
喜びながら
- 4784 pirika shuke
ピリカ シュケ(←スケ)
よい 炊事
心をこめて煮炊き
- 4785 koyairikta-
コヤイリクタ
に対して 自身を 高所に
にかいがいしく
- 4786 ante kane,
アンテ カネ
置く 状態で
立ち働き、
- 4787 rai sonabi
p.108 ライ ソナビ
特大の 高盛椀
山盛りの高盛飯を
- 4788 ikit tukari un
イキツ(←イキリ) トウカリ ウン
列 近く にいる
宝壇そばで
- 4789 shikankitai
シカンキタイ
自分の 頭の頂
うやうやしく高く
- 4790 eimekamba
エイメケアムバ
そこに 分配の食物を持つ(←ani 複)
持ち上げ、
- 4791 rai sonabi
ライ ソナビ
特大の 高盛椀
山盛りの高盛飯を
- 4792 i-kobumba.
イコブムバ
我に・対して 持ち上げる(←puni 複)
わたしに捧げました。
- 4793 A-koonkami
アコオンカミ
我は・~に 拝礼し
わたしは拝礼し
- 4794 wa ibe-an.
ワ イベアン
て 食べる・我は
て食べました。
- 4795 Harkisotta
ハラキシツタ(←ハラキ ソオロタ)
左の座 の所で
左座に
- 4796 pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性が
- 4797 a-sotki
アソツキ
我が・寝床
わたしの寝床を
- 4798 pirikano kar wa
ピリカノ カラ ワ
美しく 作って
心地よく整えて
- 4799 i-hotkere.
イホツケレ
我を・寝させる
わたしを横たわらせました。

- 4800 Okai utar
オカイ ウタラ
いる 人々
そこにいた人々
- 4801 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も
- 4802 hotkeba.
ホツケバ
寝る+(複数語尾)
寝ました。

1-8 眠れぬ夜

- 4803 Mokor boka
モコ ボカ
眠り さえも
わたしはなかなか寝つけ
- 4804 a-etoranne.※1
ア エトランネ
我は・～いやがる
ません。
- 4805 Ramma [-resuyubi
ラムマ イレス ユビ
いつも 我を・育てる その兄
依然として育ての兄さまが
- 4806 katkoro hawe
カッコロ ハウエ
あり方を持つ その声
あのように言い、
- 4807 katkoro shiri
カッコロ シリ
あり方を持つ その様
あのように振る舞ったこと
- 4808 a-eshikarun.※2 ko
ア エシカルン コ
我は・～を思い出すと
を思い出すと、
- 4809 sonno a-eyashtoma
ソノノ アエヤシトマ(←ア エヤシトマ)
本当に 我は・それについて 自身を 怖れる
わたしは恥ずかしく思い
- 4810 hemem ki,
ヘムム キ
も する
もし、
- 4811 wen irushka
ウエン イルシカ
悪い 物事を腹立たしく思う
非常に腹が立ち
- 4812 toi irushka
トイ イルシカ
ひどい 怒り
とても口惜しい
- 4813 a-ki kane,
アキ カネ
我は・する 状態で
気がして、
- 4814 a-ebokba yakka
ア エボクバ ヤッカ
我が・～を憎む しても
兄を恨むあまり
- 4815 kera boka a-nu
ケラ ボカ アヌ
味 すら 我は・聞く
食べ物の味も
- 4816 somoki kane.
ソモキ カネ
(否定)する 状態だ
わからない。
- 4817 Nekonkanewa
ネコン カネ ワ
どうもになって
どうにかして
- 4818 te un ek-an
テ ウン エカン(←エクアン)
ここへ 来る・我が
ここへわたしが来る
- 4819 etoko ta
エトコ タ
その前
前に
- 4820 a-wenyubini
ア ウエン ユビヒ
我が・悪い その兄
わたしのくされ兄に
- 4821 a-nukar wa
アヌカラ ワ
我は・～を見た
会って
- 4822 a-chishekoiki,
アチシエコイキ
我は・泣きでもって～に対して もの をする
わたしは泣いて怒りつけ、
- 4823 boronno boronno
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
ていっばい
- 4824 a-kobashrota
アコバシロタ
我は・対しのものしる
悪態をつき
- 4825 a-ormamekar wa
アオロママ エカラ ワ
我は・不平 それを作っ て
不満をぶちまけて
- 4826 ponno hene
ボンノ ヘネ
少し でも
少しは
- 4827 heseturiri-an
ヘセトウリリアン
息を・伸ばし伸ばしする・我は
いい気味だ(?)
- 4828 kuni batek
クニ バテク
はずと だけ
とばかり
- 4829 a-ramu rokwa,
アラム ロクワ
我は・思っ たところが
思っていたのに、
- 4830 nea [-resuyubi
ネア イレス ユビ
件の 我を・育てる その兄
あの育ての兄さまが
- 4831 naa naa
ナア ナア
まだ まだ
もつともつと
- 4832 wem buri
ウエム(←ウエン) ブリ
悪い 悪い 行い
悪い行いを
- 4833 koro shiri
コロ シリ
持つ その様子
したことに、
- 4834 eashka boo hene
エアシカ ボオ ヘネ
本当に もつと でも
それこそなおさら
- 4835 a-keutumwen.
アケウトウムウエン
我は・気分を悪くする
私は気分を悪くしました。
- 4836 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 4837 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方が
- 4838 isam a chiki,
イサム ア チキ
無い た ならば
いらつしやらなかったなら、
- 4839 tane tap korachi
タネ タブ コラチ
今 この ごとく
今このように
- 4840 shiknu-an kane
シクヌアン カネ
生きる・我は 状態で
わたしは生きては
- 4841 an-am be
アンアム(←アン) ベ
いる・我は もの
い
- 4842 newa kusu.※3
ネワ クス
であった から
ないで、
- 4843 hushko.※4 wano
フシコ ワノ
古く から
とつくに
- 4844 wen-rai
ウエンライ
悪い 死
悪い死に方
- 4845 toi-rai
トイライ
土の 死
ひどい死に様
- 4846 a-ki wa isam
アキ ワ イサム
我は・して 無くなってしま
をしてしまった
- 4847 nankor.
ナンコロ
だろう
でしょう。
- 4848 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびとが
- 4849 tap korachi.※5
タッコラチ
この ごとく
このように
- 4850 chikeutusare
チケウトウサレ
～のこと 骸を蘇生させる
わたしの命を取り戻
- 4851 i-y-ekarkar katu,
イイエカカカ カトウ
我に・～をする その容子
したことを、
- 4852 [-resuyubi hene
イレス ユビ ヘネ
我を・育てる その兄 でも
育ての兄さまや
- 4853 Otasam un kuru hene
オタサム ウンクル ヘネ
砂浜 側に住む お方 でも
オタサムびとに
- 4854 oar ponno ka
オアラ ボンノ カ
全く 少し も
まったく少しも
- 4855 somo nu
ソモヌ
(否定)聞く
聞こえておらず、
- 4856 erambeutek ruwe
エラムベウテク ルウエ
知らない その様
知らないことが
- 4857 boo hene
ボオ ヘネ
もつと でも
なおさら
- 4858 a-toikorushka.
アトイコルシカ
我は・ひどく立腹する
わたしは腹立たしい。

※1 原綴 Aetaran no

※3 newa kusu「くであった から」(久189)

※2 原綴 Aeshikurun

※4 慣用表現 hushkotai wano のtoi が脱落したか?

※5 原綴 tapkirachi

- 4859 Konepkeukata!
コネッ ケウ カタ
「調律」何 体 上「感動」
おおあわれ、
- 4860 shukup upsorka
シュクフ ウプソロカ
若い 懐 上
うら若いむすめの肌
- 4861 mukke upsorka
ムクケ ウプソロカ
隠れている 懐 上
隠れている 肌
- 4862 a-i-kochari ruwe,
アイコ チャリ ルウェ
人が・我に・対し 散らす その様
あらわにされたこと、
- 4863 lyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 4864 anun pon nishpa
アヌン ポン ニシパ
よその 若い 旦那様
他族の若いお方に
- 4865 chikeutusare ruwe
チ ケウトウサレ ルウェ
～のこと 骸を蘇生させる その事実
命を救われたことを
- 4866 a-eyaiko-
アエヤイコ(←ア エ ヤイコ)
我は・それを 自身に
わたしが思い
- 4867 shiramse chiki,
シラムセ(←シラム スイェ) チキ
自分の 思い 巡らす なら
出せば、
- 4868 enewaboka
エネ ワ ボカ
いかにして さえも
もうどうして
- 4869 iki-an i ka
イキアニカ(←イキ アン イカ)
物事をする・我が ことも
いいかわたしは
- 4870 isam.
イサム
無い
わからない。
- 4871 Otasam un kuru
オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびと
- 4872 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 4873 isam a chiki,
イサム ア チキ
無い た ならば
いらつしやらなかつたなら、
- 4874 lyochi un kuru
イヨチ ウン クル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 4875 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方
- 4876 oyakehe
オヤケヘ
他の 所
以外の所に(？)
- 4877 a-oterkep hean?
ア オテレケフ ヘアン
我は・を踏むもの なの か
わたしは跳んで行くものかしら(？)

- 4878 Oar icrun※1
オアラ イオルン
まったく 我・の方へ
まったく 自分(？)
- 4879 yainu katu
ヤイヌ カトウ
思い その容子
気持ちが(？)
- 4880 a-eraman chiki,
ア エラマン チキ
我は・わかる なら
はっきりしているから(？)
- 4881 boo hene
ボオ ヘネ
もっと でも
なおさら
- 4882 a-eramboken.
アエラムボケン(←ア エラム ポキウエン)
我は・～で 心 その下 悪い
わたしはそれが不満です。

1-9 一晩中の涙

- 4883 Nekona tapne
ネコナ タッネ
どのように こう
どんなにかまあ
- 4884 tananchikatta※2
タナンチカッタ(←タン アンチカラ タ)
この 一夜に
- 今夜一晩じゅう(？)
- 4885 shukupkuru keutum
p.108 シュクフ クル ケウトウム
若い 人 精神
若者の気持ちというものは
- 4886 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このような
- 4887 konep ne kusu
コネッ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 故に
ものだから、
- 4888 yaikeutum-
ヤイケウトウム
自分の 心情
自分の気持ちが
- 4889 wente※3 humi
ウエンテ フミ
を悪くする、こわす その感じ
晴れないでもやもやして
- 4890 okai be an.
オカイ ベ アン
ある こと ある
いるのかしら？
- 4891 Arsuno boka,
アラスノ(←アラ スイネノ) ボカ
一回である(副詞語尾)でも
ただの一度すらも、
- 4892 heru shukupkur
ヘル シュクフ クル
ただ～だけ 若い 人
若い者どうし
- 4893 a-ne wa
アネ ワ
我ら・であつて
で
- 4894 yepnu kuni p
イエプヌ クニ ッ
言うこと 聞く べき 者
うぶな
- 4895 a-ne kusu,
アネ クス
我ら・である 故に
わたしたちですから、
- 4896 utashba bakno
ウタシバ バクノ
相互に ほどに
お互いに
- 4897 aritak chinki※4
アリタク(←アラ イタク) チンキ
一つの言葉 裾、端
言いたいことも言えずに
- 4898 a-uwehaitare aine
ア ウエハイタレ アイネ
我らは・互いにほす、反らす したあげく
言いそびれているうちに
- 4899 uwekoppa-an
ウエココパアン(←ウ エコ ホッパ アン)
互いでに nop から去るの複・我らは
わたしたちが別れてきた
- 4900 shiri sonno
シリ ソンノ
その様 本当に
ことを本当に

※1 orun「助詞」①中に、中へ chise orun hum ash 家の中に音がする②(場所を示す)～へ。
【副詞】(句頭)そこへ「語法」【助】そこに居る、～にゐる。(様本でも)→toop kanto orun(久192)

※2 annikar「名詞」(今夜、今晚、一夜、一晩)というときの「夜、晩、寝ている間」(目:2)

※3 《宣野茂談》「残念でたまらない。」(教Ⅲ-4)

※4 原綴 ari itak chinki(教XVI-162)も同。『金 I-169; 金 I-385』は aritak chinki

- 4901 a-eyairamboken,
ア エ ヤイラムボケン
我は・それについて 自分～を憐れむ
わたしはもの足りなく思い、
- 4902 yayiraike itak boka
ヤユイライケ イタク ボカ
感謝する 言葉 なりとも
感謝の言葉すら
- 4903 a-ramu i korachi
アラム イ コラチ
我が・考える こと の如く
思い通りに(思いの丈を)
- 4904 a-ye boka
アイエ ボカ
我は・言う だけでも
言うのも
- 4905 euchike kane ari
エウチケ カネ アリ
に関して 臆病な 状態だ と
はばかれる(勇気がない) と
- 4906 usaine usaine
ウサイネ ウサイネ
いろいろ 様々に
いろいろさまざま
- 4907 tup ne rep ne
トゥフ ネ レフ ネ
二つ になる 3段つ になり
千々に
- 4908 a-keutum kurka
アケウトウム クルカ
我が・気持ち の上
わたしの心は
- 4909 chiukoboiba
チウコボイバ
される 混ぜ合わす(←ukoboye複)
乱れ、
- 4910 a-yainube-
アヤイヌベ
我は・自身の 涙
わたしは涙を
- 4911 koshiru※ kane.
コシル カネ
と共にこすれる 状態だ
しとどに流していました。
- 4912 Aine aine ponno
アイネ アイネ ポンノ
そして そして 少し
そうしているうちにほんの
- 4913 mokor-an-tek ko
モコロ アン テク コ
眠る・我は ちよっとする と
すこし眠ると
- 4914 shiribeker,
シリ ベケレ
迎りの様子 明るい
夜が明け、
- 4915 pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性が
- 4916 chihobumbare,
チホブムバレ
自身を 起き上がら せる
起き出しました。

※原綴は前行からAyanu(改行)koshiruでbeが抜けている。

- 4969 Neino ne ko
ネイノ ネ コ
そのようである と
そうであれば(そんなことด้วย?)
- 4970 ukoiki sakno
ウ コイキ サクノ
互いをいじめる 無しに
争い無しに
- 4971 otumi sakno
オトウミ サクノ
を原因とする 戦い 無しに
戦いもなく
- 4972 e-ki eashkai be
エ キ エアシカイ ベ
汝が・する できる もの
そなたは結婚できている(?)
- 4973 ne ruwe hean?
ネ ルウエ ヘアン
である その事 なの
のか?
- 4974 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびと
- 4975 ene hetapne
エネ ヘタンネ
こう かこれはまあ
あんなにもまあ
- 4976 bawetok ne kusu,
パウエトク(←パエトク) ネ クス
口先 だ から
雄弁な
- 4977 utarpa ne kusu,
p.110 ウタラ パ ネ クス
仲間頭 である 故に
族長であるから
- 4978 kamui irenka
カムイ イレンカ
神の もの 意図
神のようなご決断
- 4979 eashkai
エ アシカイ
に関して 上手だ
見事な
- 4980 keutumum pirika p
ケウトウム ビリカ ッ
その精神 いい もの
精神のいいお方
- 4981 ne kusu,
ネ クス
である 故に
であるゆえ、
- 4982 tu pirika kuni p
トゥ ビリカ クニ ッ
二つの 良い はずのこと
たくさんのよきことを
- 4983 ye hawe
イエ ハウエ
言う その話
言ったそのことを
- 4984 utashba bakno a-ye
ウタシバ バクノ アイエ
相互い ほどに 我らは・言う
お互いに話し
- 4985 a-uweraman wa
アウウエラマン(←アウ エラマン) ワ
我らは・互いにわかる して
合意して
- 4986 uwekoppa-an i
ウウエコッパアン(←ウ エコッパ アン) イ
互いでに nopi から去るの複・我らは こと
別れてきたことを
※1 aeoiru <我が言れる>の誤記?
※2 oman ikiri(omanikiri) その途中(脚注.oman-ikir <行く・ひとづき> 旅行のつづき、途中(金Ⅰ-143)、いきさつなど(金Ⅱ-128)。
※3 「前行どともにおそれぼどかるならまだしも、我をおそれぼどかることをせぬと怒ることばつき」(金Ⅱ-93)
※4 「前行どともにおそれぼどかるならまだしも、我をおそれぼどかることをせぬと怒ることばつき」(金Ⅱ-93)
- 4987 eoira※1
エ オイラ
汝は・忘れる
そなたは忘れ(?)
- 4988 e-erambetek
エ エラムベテク
汝は・~を知らない
そなたが知らない
- 4989 wa kusu,
ワ クス
た 故に
かつたから、
- 4990 tap korachi
タッ コラチ
この ごとく
このように
- 4991 e-wenyubi
エ ウエン ユビ
汝の・悪い 兄
そなたのくされ兄(?)の
- 4992 wenrenkabi
ウエン レンカビ
悪い 裁量
決めごとの(と約束した?)
- 4993 oman ikiri※2
オマン イキリ
行く 一続き
いきさつを
- 4994 wen yashtoma
ウエン ヤシトマ(←ヤイ シトマ)
悪い 自身を恐れる
恥ずかしいやら
- 4995 toi yayikush
トイ ヤユイクシ
ひどく 恥じ入り
情けないやら
- 4996 a-ki kane
ア キ カネ
我は・~をする 状態である
思って
- 4997 yayababu-an
ヤヤバブアン(ヤイ アバブ アン)
自身 悔いる・我は
われはあやまります。
- 4998 lyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびとが
- 4999 wen keutum
ウエン ケウトウム
悪い 精神
悪い精神の
- 5000 kor a yakne
コロ ア ヤクネ
持った ならば
持ち主ならば
- 5001 PonTeseu kotan
ポン テセウ コタン
小 テセウ 村
ポンテセウ村に
- 5002 tumi sak be
トゥミ サク ベ
戦い 無いもの
戦いがないもの
- 5003 ne ruwe hean?
ネ ルウエ ヘアン
である その事 なの
のか?
- 5004 Somo yashtoma
ソモ ヤシトマ
(否定) 恥じ入る
恥ずかしくもなく(恥ずかしいとも思わず)(?)
- 5005 neita bakno
ネイタ バクノ
どこ までも
どこまで
- 5006 ne yakka
ネ ヤクカ
であつても
も
- 5007 uirwakikor
ウ イ、ワキ コロ
互いを兄弟に 持つ
兄弟同志で
- 5008 chiramkoiki※3
チラムコイキ(←チ ラム コイキ)
~こと 心 をいじめる
気をもませ
- 5009 i-y-ekarkarba shiri
i-y-ekarkarba sniri
我に ~を施す+(複) その様
われに気苦労させるのが
- 5010 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと
- 5011 tambe ne ya?
タムベ(←タンベ) ネ ヤ
このこと である か
なのか?
- 5012 Shiknu ihomap
シクヌ イホマブ
生きているを恐れるもの
死にたくて
- 5013 tusa ihomap※4
トゥサ イホマブ
生きかえるを恐れるもの
くたばりたくて
- 5014 chikosomokur-
チ コソモク ル
~こと に対して+(否定)
あえて
- 5015 yaikatanu
ヤイカタヌ
遠慮する、つつしむ
おそればばかりを
- 5016 i-y-ekarkar ruwe
イイエカラカラ(←イ エカラカラ) ルウエ
我に ~を施す その事実
われにせぬことが
- 5017 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと
- 5018 tambe ne ya?
タムベ(←タンベ) ネ ヤ
このこと である か
なのか。
- 5019 A-tureshipo
アトゥレシポ
我が・妹+(指小辞)
わが可愛い妹が
- 5020 hobuni wa
ホブニ ワ
起きる して
起き出して
- 5021 shitcashnure
シツチャシヌレ(←シ) チャシヌレ)
辺りをさつぱりさせる
はき掃除する
- 5022 humi e-eashba?
フミ エ・エアシバ
その音 汝は・それについて 聞こえない
音がそなたは聞こえないのか?

5023 Menoko anakne
p.111 メノコ アナクネ
女性 は
女性は

5024 nep ne yakka
ネ ヌ ヤッカ
何で あつても
何ごとでも

5025 eukasui be
エ ウカスイ ベ
それについて 助け合う もの
手伝いあつてするもの

5026 ne awa,
ネ アワ
であつたが
であつたが、

5027 tanto wano
タント ワノ
今日 から
今日から

5028 kamuinomi-an wa
カムイノミ アン ワ
神 をまつる・我は
われはカムイノミをして

5029 a-eramushine kuni
ア エラムシンネ クニ
我は・それで 安心する はずと
それで安心しよう

5030 a-ramu awa,
アラム アワ
我は・思つ たところが
思つていたのに、

5031 tap korachi
タブ コラチ
この ごとく
このように

5032 hemanta tapne
ヘマンタ タッネ
何か これのように
何かこう

5033 okihi e-ki
オキヒ エキ
悲しみ 汝が・を
そなたが悲しん

5034 shiri okai ko,
シリ オカイ コ
その様 ある と
でいると、

5035 aokai hene
アオカイ ヘネ
我 でも
われにしても

5036 pirika yainu
ピリカ ヤイヌ
よく 思う
いい思いで

5037 somoki a-ki
ソモキ アキ
(否定)する 我は・する
神に祈れない

5038 nankor. Hetak
ナンコロ ヘタク
だろう 早く
にちがいない。さあ

5039 hobumba wa kusu
ホブムバ ワ クス
起き上がるしたから、～だから
妹が起きたから、

5040 e-ikip※1
エイキッ
汝 悲しみ こと(?)
そなたの憂い?

5041 nei ikkewe
ネイ(ーネ) イッケウエ
その その原因
のわけを

※1 eokip の誤記?

※2 ohaine「恐ろしい、恐れる。但し、人の談に感心して「ohaine!」と言うときは、<成る程!>(畏るべき哉、畏ろしや、こわやの意から)。なる程なる程」(金 I-383)

5042 ye yan! A-nu
イエ ヤン アヌ
言い なさい 我が・を聞く
言いなさい。聞いて

5043 kush ne na." ari
クス ネ ナ アリ
つもり である ぞと
やろうぞ」と

5044 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おつちやつたから、

5045 inu ne wa
イヌ ネ ワ
物を 聞く である して
ただ聞くだけ

5046 a-ki p ne koroka,
アキッ ペ ネ コロカ
我が すること である けれど
をしたのだけれど

5047 nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
何をどう本当に

5048 iki-an a yakka
イキアン ア ヤッカ
物事をし・我が た としても
わたしがしたらいいのか(?)

5049 a-eramishkare
ア エラミシカレ
我は・知らない
わからない

5050 bakno toiko
バクノ トイコ
ほど ひどく
ほど非常に

5051 homatu-an,
ホマトウ アン
尻 を挙げる・我は
わたしは驚き、

5052 kannaruino
カンナルイノ
再び+(強意) また
いっそう

5053 yayikush keutum
ヤイクシ ケウトウム
悔いる 気持ち
恥ずかしい気持ちが

5054 a-yaikore.
ア ヤイコレ
我は・自分に ~を与える
わいてきました。

2-3 私の内省

5055 Ohaine※2 kane
オハイネ カネ
恐るべき 状態だ
なるほどああそうか、

5056 Otasam un kuru
オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびとが

5057 yeyi korachi ne.
イエユイ(ーイエ イ) コラチ ネ
言う こと ごとく である
言つたとおりだ。

5058 Otasam un kuru
オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびとの

5059 chironnup arushbe
チロンヌフ オルシベ(ーオロ ウシ ペ)
キツネ 所 についているもの
キツネに関する話は

5060 ponnoka
ボンノカ
少し も
少しも

5061 eramishkarep
エラミシカレフ
知らない こと
覚えがなしいこと

5062 konepnekusu,
コネフ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 故に
なものだから、

5063 tap korachi
タブ コラチ
この ごとく
あのように

5064 yainu i
ヤイヌ イ
考える こと
彼が考えることは

5065 sonno ne aokai
ソノ ネ アオカイ
本当 である 我が
そもそも(?)わたしが

5066 shino wen-an
シノ ウエン アン
真に 悪い・我が
本当に悪い

5067 ruwe ne koroka,
ルウェ ネ コロカ
その事実 だけれど
のだけれど、

5068 I-resuyubi
p.112 イレス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまが

5069 iyotto※3 aashkar.
イヨット アアシカラ
(?) (?)
いちばん(?)

5070 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は

5071 ramma tashi
ラムマ タシ
いつも (強調)
いつも

5072 maukowembe
マウコウエム ベ
氣 に悪くある 者
運が悪い

※3 iyotta の誤記?

5073 a-ne kusu,
アネ クス
我である故に
わたしですから、

5074 tap korachi
タップ コラチ
このごとく
このように

5075 wen kuni ne
ウェン クニ ネ
悪い べきである
悪くなるように

5076 batek iramu-an
バテック イラム アン
だけ ものを思う・我は
ばかりわたしは思ってしまう

5077 hawe ne. Konep
ハウエ ネ コネプ
声 である (調律、強弱) 何
ようです。何の

5078 wen keutum
ウェン ケウトウム
悪い 精神
悪い精神も

5079 somo a-kor
ソモ アコロ
(否定) 我が・～を持つ
わたしは持っていない

5080 ruwe ne i
ルウェ ネ イ
こと である こと
のであることを

5081 kamui batek
カムイ バテック
神 だけ
神のみが

5082 eramokai
エラムカイ(←エラム オカイ)
～に関して心ある
ご承知

5083 nankor.
ナンコロ
だろう
でございましょう。

5084 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それゆえ

5085 tantewano
タンテワノ
今ここから
これからもう

5086 somo chish-an
ソモ チッシュアン
(否定) 泣く・我は
泣くまい

5087 kuni a-ramu,
クニ アラム
するべきと 我は・我を
とわたしは思いました。

5088 Chipshike ka ta
チップシケ カ タ
船荷 上 で
甲板で

5089 shisembir beka
シセムビル ベカ
自分の後ろ で、から
後ろを向いて

5090 yainubeko-
ヤイヌベコ
自身の涙 そこに
わたしが涙を

5091 ranke-an i hemem
ランケアン イ ヘMEM
落とす・我が こと でも
流していたことも、

5092 Iyochi un kuru
イヨチ ウンクル
イヨチに住む お方
イヨチびとは

5093 somo i-orun
ソモ イオルン
(否定) 我の方へ
わたしの方を

5094 inkar apkor
インカラ アッコロ
見る ように
見ていないように

5095 okai rok awa,
オカイ ロク アワ
あつ た ところが
あつたのに、

5096 sonno※1 nebeka
ソノノ ネベカ(←ネブ ヘ カ)
本当に 何かこれ
ひよつとして

5097 tapne nukar hawe,
タツネ ヌカラ ハウエ
このように 恥める その声
それを見聞きし(？)、

5098 orowa sui
オロワ スイ
それから また
その上さらに

5099 ukuran ne
ウクラン ネ
昨晚 に
ゆうべ

5100 bichish-an i hene
ビチッシュアン(←アン イ) ヘネ
かすかに泣く・我は こと でも
わたしが泣き泣いていたことも、

5101 sonno hankeko
ソノノ ハンケコ
本当に 近い+(反対の意を添える語尾)
遠くで(近くもないところ？)

5102 enenep
エネネブ(←エネ エネ ブ)
こうこうのこと
かくかくしかじかの事を

5103 inu newa※2
イヌ ネワ
物を聞く であって
ただ聞いただけで(?)

5104 hawash chiki,
ハワッシュ チキ
言う から
そうおっしゃったから、

5105 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
心の底からの 気持ち
心底おどろい

5106 a-yaikore.
アヤイコレ
我は・自分に ~を与える
てしまいました。

5107 Sonno yomne-an
ソノノ ヨムネアン
本当に こりる・我は
すっかりこりたわたしは

5108 tantewano
タンテワノ
今ここから
これから

5109 yayitubare-an
ヤユイトウバレ アン
気をつける・我は
気をつけ

5110 kusu ne ari
クス ネ アリ
べきである と
ようと

5111 keutum otta
p.113 ケウトウム オツタ(←オロタ)
心 の所で
心の中で

5112 a-yaiko-
アヤイコ
我は・自身 に対して
自分の

5113 orshutke an.
オロシュツケ アン
励ます いる
気を奮い立たせていました。

※1 senneの誤記か? 「senne nepeka<(打ち消し辞)・nep-he ka 何・かひよつとして>」(金四-156)
※2 原綴 Inunowa

2-4 家事にいそむ

- 5114 Pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性に
- 5115 homatpa rui be
ホマツパ^ル ルイ ベ
尻を挙げる(←homatu^複) 激しい 者
たいへん驚いた
- 5116 konep ne kusu,
コネッ^ネ クス
(調律、強語)であるもの である 故に
ものだから、
- 5117 humetoko
フメトコ(←フム エトコ)
息の先
息を
- 5118 koeshikarba.
コ エシカラバ
に向かってつかみとる(←eshikari^複)
詰めて身を固くしています。
- 5119 Moiretara
モイレタラ
ゆっくりと
ゆっくりと
- 5120 hobuni-an,
ホブニ アン
起きる・我は
わたしは起きあがり、
- 5121 a-sancha otta
ア サン チャ オツタ(←オロ タ)
我は・前の 口 の所に
にここに
- 5122 mina kane
ミナ カネ
笑みを浮かべる 状態で
笑いながら
- 5123 shitchashnure-an,
シツチャシヌレ(←シ、チャシヌレ) アン
辺りをさつぱりさせる・我は
はき掃除や
- 5124 usa shuke
ウサ シュケ
色々 炊事
炊事などを
- 5125 a-ikasui.
ア イカスイ
我は・を手伝う
手伝いました。
- 5126 Orowano
オロワノ
それから
それから
- 5127 'matakpo' ari
マタッポ アリ
妹+(親称接尾辞) と
「可愛い妹よ」と
- 5128 pom menoko
ポム(←ボン) メノコ
若い 女
若い女性に
- 5129 a-borse chiki
ア ボーセ チキ
我が ~と言う なら
わたしが呼びかけたら
- 5130 shino nubetne,
シノ ヌベツネ
本当に 喜び
彼女はほんとうに喜び、
- 5131 'pon a-kor sapo' ari
ボン アコ^コ サポ アリ
小 我・が持つ 姉 と
『お義姉さまあ』と

- 5132 i-borse kane.
我に ~と言う 状態だ
わたしを呼びました。
- 5133 Pon a-kor yubi
ボン アコ^コ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 5134 hobumba. I-orun
ホブムバ イオルン
起き上がる 我・の方へ
起き上がりました。わたしの方を
- 5135 inkan ruwe ne ya ?
インカン(←インカラ) ルウエ ネ ヤ
見る 事実 である か
見たのか
- 5136 somo ruwe ne ya ?
ソモ ルウエ ネ ヤ
(否定) 事実 である か
見なかったのか、
- 5137 oribak rui be
オリバク ルイ ベ
慎み 激しい 者
慎み深い
- 5138 a-ne kusu,
ア ネ クス
我・である 故に
わたしですから、
- 5139 hebuni boka
ヘブニ ボカ
顔を上げる さえも
顔をあげることすら
- 5140 a-niukesh.
ア ニウケン
我は・しきれない
出来ません。

第3章 カムイノミ

3-1カムイノミの始まり

- 5141 Pon a-kor yubi
ボン アコ_レ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者は
- 5142 burai kari
ブライ カリ
窓 から
窓から
- 5143 noshke bakno
ノシケ バクノ
真ん中 まで
上半身を
- 5144 etukka kane,
エトゥッカ カネ
頭を突き出させる 状態で
乗り出して、
- 5145 yaikotan bake
ヤイコタン バケ
自分の村 上手の所
自分の村のかみてから
- 5146 yaikotan kesh
ヤイコタン ケシ
自分の村 末端
下端
- 5147 kohawotuire.
コハウオトウイレ(←コハウオトウイレ)
に対し声そこから切り落とさせる
に向かって声高に叫びました。
- 5148 Tane shino
タネ シノ
今は 本当に
『もうすっかり
- 5149 tumashnu-an kusu,
トゥマシヌ(←トウム アシヌ) アン クス
力が充分ある・我は 故に
われは元気になったから、
- 5150 orotunashno
オロトゥナシノ
全く早く
一刻も早く
- 5151 arki wa
アラキ ワ
来 て
やって来て
- 5152 ikasui yan!
イカスイ ヤン
手伝い なさい
手を貸してくれ。
- 5153 Hetak! Kamui-
ヘタク カムイ
早く 神を
さっそく、カムイ
- 5154 nomi-an kusu
ノミ アン クス
神をまつる・我らは つもり
ノミをし
- 5155 ne na! ari
ネ ナ アリ
である ぞ と
ようぞ』と
- 5156 hawash chiki,
ハワシ チキ
言う から
おっしやったから、
- 5157 sui ineapkus
スイ イネアックス
また どうしたの故に
また何とまあ
- 5158 nishpa utar
ニシパ ウタラ
旦那 衆
一家の主人たちは

uitaknu wa

ウイタクヌ ワ

互いの詞を聞く して
聞きわけがよかった

- 5160 shiriki nankora.
シリキ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
その様をし だろう か
ことでしょうか。
- 5161 Inne utar
インネ ウタラ
大勢の人々
大勢のひとつたちが
- 5162 uwekarba,
ウウエカラバ
相共に そこ kari 'まわる' 複数形
集まり出てきて、
- 5163 kamuinomi-an
カムイノミ アン
神をまつる・人々が
カムイノミを
- 5164 kuni korachi
クニ コラチ
べき ごとく
すべく、
- 5165 usa okai be
ウサ オカイ ベ
色々 ある こと
さまざまな事柄を
- 5166 a-ukasui aine
アウカスイ アイネ
人々が・助け合う そのうち
協力し合って、
- 5167 irukaitomta
イルカイトムタ
短い間 中に
たちまちのうちに
- 5168 etoko-a-oiki
エトコア オイキ
その仕度・人々が・をする
準備が
- 5169 okere. Taporowa
オケレ タポロワ(←タッ オロワ)
終わる これから
出来上がりました。さてそれから

※1cl anipontari は日本の上代の<ほたり>酒
を盛って女が酒宴に手にもって酌をするもの(金
IV-205)、…酒宴に酌を執る人の手にもつ容器を
いう。日本ではどういふ容器だったか詳らかでな
いが、アイヌの古老は、これをもろくちの銚子の
ように口が左右についていたものだったと説く(金
II-428)

※2 pontari は「真正に持たずに少しわきの方へよせて抱く様にもつに云ふ。」(研674)

3-2 並ぶ酒宴の座

- 5170 utarpa batek
ウタラ パ バテク
仲間 頭 ばかり
一家の主人ばかり
- 5171 katkemat
カツケマツ
淑女
奥方さま
- 5172 utar batek
ウタラ バテク
たち ばかり
たちばかりが
- 5173 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴の 正装
酒宴の正装
- 5174 uwechiureba kane
ウエチウレバ カネ
互いに 刺させる(複数語尾) 状態で
を重ね着して
- 5175 shiaworaiba,
シアウオライバ
自身内に 還る(s aworaye 複)
屋内に入ってきて、
- 5176 tanne chikupso
タンネ チクフソ
長い われら 飲む物(=酒) 席
ずらっと酒宴の座が
- 5177 chishiturire.
チシトゥリレ
ている 自分を 伸ばさせる
並びました。
- 5178 A-matakipo
アマタキポ
我の妹(親種後尾辞)
わたしの義妹は
- 5179 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴の 正装
酒宴の正装
- 5180 uwechiure,
ウエチウレ
互いに 刺させる
をぞっくり重ねて
- 5181 boo hene
ポオ ヘネ
もっと でも
なおさら
- 5182 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 の様子 をなす
神のように
- 5183 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
いい その事実
美しい姿に
- 5184 okai wa,
オカイ ワ
あつ て
なって、
- 5185 anipontari ※1
アニ ポンタリ
手に持つ ほたり
手に持つ片口の銚子
- 5186 eshiyarbok-
エシヤラボク
それを 自分の 脇の下に
を自分の胸の脇に
- 5187 amba ※2 kane,
アマバ(ani 複) カネ
抱え持つ 状態で
ささげ持って

- 5188 chikupso utur
チクッソ ウトゥル
酒 席 間
宴席のあいだを
- 5189 erututke
エ ルトゥツケ
そこをまわって行く
あちらこちらまわって
- 5190 iyomare.
イヨマレ(←イ オマレ)
物を入れる
酌をしていました。
- 5191 Pon a-kor yubi
ボン アコ_レ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 5192 oshisounwa
オシソウンワ
その尻が 右座 に向くして
右座の方の
- 5193 abeteksam
アベ テッサム
火 すぐ傍
炉端に
- 5194 chisekorkuru ne
チセ コロクル ネ
家を持つ人 として
家の主人として
- 5195 ehorarba.
エ ホララバ
そこに 尻を押さえる(horeri複)
座りました。
- 5196 Aokai anakne
アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ)
我 ある ~するならば
わたし自身は
- 5197 harkisotta
ハラキシツタ(←ハラキ ソ オロタ)
左の座 の所で
左座にいる
- 5198 matutar tum ta
マトウタラ(←マツ ウタラ) トウム タ
女性たち 中 に
女性たちの間に
- 5199 iyeutanne-
イイエウタンネ(←イ エ ウタラ ネ)
人と一緒に仲間になる
仲間入りして
- 5200 an kane.
アン カネ
我は 状態で
座りました。
- 5201 Katkemat utar
p.115 カツケマツ ウタラ
淑女 たち
奥さまたちは
- 5202 shino i-kateomarba.
シノ イカテオマラバ(←イ カツエ オマレ複)
本当に 我に・形 そこについて 入れる
本当にわたしに親愛の情を示し、
- 5203 a-santekebo uina
ア サン テケボ ウイナ
我が・出る その手+(指小辞) を執る
わたしの手をとる、
- 5204 i-ukoruiruiba kane.
イウコルイルイバ カネ
我に・共に 何度も撫でる 状態だ
さすり合う初対面の挨拶をしました。
- 5205 Shisak※1 tonoto※2
シサク トノト
滅多にない 酒宴
洋々とした酒宴が
- 5206 a-ukoante
アウコアンテ
われら一同 相共に 置く
打ち開けました。

3-3 和人の酒を嗜む

- 5207 Menoko ikure
メノコ イクレ
女性 酒を飲ませる
女性が飲むお酒は
- 5208 shinnai kane.
シンナイ カネ
別な異なる 状態である
また別です。
- 5209 Tanebo konna※3
タネ ボ コンナ
今+(指小辞) こそ
たった今はじめて
- 5210 tono ku tonoto ari
トノ ク トノト アリ
倭人 飲む 酒 と
倭人が飲む酒と
- 5211 a-borse kuni p
ア ボロセ クニ ッ
人が称する はずのもの
やら言うものを
- 5212 a-ku wa
ア ク ワ
我が・飲む して
わたしが飲んで
- 5213 inkar-an ko,
インカラン(←インカ_レ アン) コ
眺める・我が と
みると、
- 5214 konepnamunsui
コネツナムンスイ(←コ ネプナム ウンスイ)
(調律) 何 さえ (強調) また
何とまあ
- 5215 kera pirika wa
ケラ ピリカ ワ
味 よく て
美味しかった
- 5216 humash nankor'a!
フマシ(←フム アシ) ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
気がする だろう か
ことでしょうか。
- 5217 Sonno a-esambe-
ソンノ アエ サムベ
本当に 我は それで 肝
ほんとうにわたしはいい気持ち
- 5218 shturi an. ※2
シトゥリ アン
を長く伸ばす (不要?)
になりました。
- 5219 Nishpa utar
ニシパ ウタラ
旦那 衆
一家のあるじたちも
- 5220 katkemat utar
カツケマツ ウタラ
淑女 たち
婦人たちも
- 5221 eashka nubetneba.
エアシカ ヌベツネバ
本当に 喜ぶ+(複数語尾)
本当に喜んでいきます。
- 5222 Kamui tonoto
カムイ トノト
神の 酒
結構な御神酒は

- 5223 sonno nubur be
ソンノ ヌブル ベ
真に 濃い もの
まことに濃いもの
- 5224 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 5225 inne utar
インネ ウタラ
大勢の人々
一座のひとびとは
- 5226 rayiyoshkiba hine
ラユイヨシキバ(←ライ イヨシキバ) ヒネ
ひどく酔う+(複数形語尾) して
おいおい酔っぱらい、そして
- 5227 tunashno
トゥナシノ
早く+(副詞形成語尾)
さっそく
- 5228 yayirakeba hine
ヤユイライケバ ヒネ
感謝する+(複数語尾) して
感謝して
- 5229 tuwan onkami
トゥワン オンカミ
二十の 拝礼
何十回もの
- 5230 rewan onkami
レワン オンカミ
三十の 拝礼
拝礼
- 5231 arukakushteba.
アルカクシテバ(←アラウ カクシテバ)
全く 互いの上を通過させる+(複数語尾)
をたくさん重ねました。

※1 si-sak「<真・無い>(金 I-51)、本当、また美称の接頭辞・無い>(金 I-42)、「<自分・を欠く>」(田 662)

※2 shisak tonoto「誰も荒い口をひとつきもなく喧嘩口論もなしに皆愉しく飲む」(研W343)

※3 原綴は Ae-Sambesh turi an。「sampe-snituri 好い気持ちニナル」(久234)は自動詞だが、e-がつくと他動詞になるから、末尾 an は誤記? 金成マツはこの他に sambeshiturian(金 V-178)、sambeshhuri An(教 IX-180)、Anesambeshhuri(教 X V-37)、sambeshhuri An(教41-120)などと綴っている。

※4 原綴は Ae-Sambesh turi an。「sampe-snituri 好い気持ちニナル」(久234)は自動詞だが、e-がつくと他動詞になるから、末尾 an は誤記? 金成マツはこの他に sambeshiturian(金 V-178)、sambeshhuri An(教 IX-180)、Anesambeshhuri(教 X V-37)、sambeshhuri An(教41-120)などと綴っている。

3-4 宴の終わり

- 5232 Matutar otta
マトウタラ(←マツ ウタラ) オツタ(←オロ タ)
女性たち の所で
女性たちの席には
- 5233 emetup hemem
エメトウ ヲ ヘメム
残すもの でも
土産用に飲み残された酒だの
- 5234 usa tono e
ウサ トノ エ
種々の 倭人 が食べる
いろいろ倭人の
- 5235 kerambe hemem
ケラムベ(←ケラ アン ベ) ヘメム
味 あるもの でも
おいしい甘いお菓子などが
- 5236 boronno
ボロンノ
たくさん
ぐっすり
- 5237 mekarba kane
メカラバ カネ
食べ物を分ける(←mekare複) 状態で
土産物に配られて
- 5238 iwak okerba.
イワク オケンバ
帰る 終える
一同が帰宅し終えました。
- 5239 Okake ta
オカケ タ
後 で
その後には
- 5240 ouse ren a-ne wa
オウセ レン アネ ワ
ただ~だけ 三人 我ら~である して
わたしたち三人きりに
- 5241 okai-an.
オカイアン
いる・我らは
なりました。

3-5 深い眠りにつく面々

- 5242 Pon a-kor yubi
ボン ア コロ ユビ
小 我~が待つ その兄
わたしの婚約者
- 5243 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 5244 shino ihoshkip
シノ イホシキッ
真に 酔うもの
すっかり酔ってしまった
- 5245 konepnekusu
コネッ ネ クス
(調律・強調)であるもの である 故に
ものだから、
- 5246 yaitemnikor-
ヤイテムニコロ
自身の 両腕の間
両腕の間に
- 5247 eshisuiba kane
p.116 エ スイバ カネ
頭 振る(suye 複) 状態で
首をたれてこっくりこっくり居眠りして
- 5248 okai chiki,
オカイ チキ
いる から
いるから、
- 5249 a-matakipo
ア マタキ ポ
我~の妹+(親称接尾辞)
わたしの義妹は
- 5250 amset ka ta
アムセツ カ タ
広やかな 台 上 に
高床の上に
- 5251 pirika sotki
ピリカ ソツキ
よい 寝床
りっぱな寝床を
- 5252 kar hine,
カラ ヒネ
造る して
敷き延べてから、
- 5253 kamui ne am be
カムイ ネ アム(←アン) ベ
神 のように ある 者
神のようなお方
- 5254 santekebo
サン テケボ
出る その手+(指小辞)
の手
- 5255 amba kane
アムバ カネ
手に持つ 状態で
をとって
- 5256 hotkereba,
ホツケレバ
寝せる+(複数形語尾)
休ませました。
- 5257 Hotkeimoire,
ホツケ イ モイレ
寝る こと 遅く
横になるやいなや、
- 5258 etoro hawe
エトロ ハウエ
いびきをかく その声
いびきをかく音が
- 5259 komeshrototke kane.
コメシロトツケ(←コメス ロトツケ) カネ
共に 物が崩れ壊れる音 しきりに鳴る 状態だ
グウグウウ。

- 5260 Aokai utar
アオカイ ウタ
我 たち
わたしたち
- 5261 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 5262 ihoshki-an humi
イホシキ アン フミ
酔う・我らは そのこと
酔ってしまったの
- 5263 ne nankor'a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である だろう か
でしょうか。
- 5264 Tabam boro chise
タバム ボロ チセ
この 大きな 家
この大きな家が
- 5265 i-koeheuke-
イコエ ヘウケ
我らに・向かい その頭 傾く
わたしたちの上へ傾き
- 5266 heuke kane,
ヘウケ カネ
傾く 状態で
かしがって来て、
- 5267 oro a-oterke
オロ ア オテナ
そこに 我らが・踏む
そこをわたしたちが踏みつけて(?)
- 5268 kotnekotne ※1
コツネ コツネ
へこむ 窪む
よろよろふらふら、
- 5269 chikibonewa
チキ ボネワ
我ら する+(指小辞) であって
もう少しで
- 5270 ukaun
ウカウン
互に 上にある
重なり合って(?)
- 5271 eshirush an anke
エシルシ(←エ シウシ) アン アンケ
頭 地につく いる 今にも~しように
ひっくり返りそうに(?)
- 5272 ikichi-an,
イキチアン
物事を する・我らが
なり、
- 5273 a-ubiminare
ア ウビミナレ
我らは・互いに 密かに 笑わせる
わたしたちはクスクス笑いを
- 5274 an kane, shino
アン カネ シノ
いる 状態で 本当に
し合って、すっかり
- 5275 shinki-an kusu
シンキアン クス
疲れる・我らは 故に
疲れてしまったので、
- 5276 tanekuran
タネクラン(←タン ウクラン)
この 宵
今夜
- 5277 boronno
ボロンノ
たくさん
ぐっすり
- 5278 mokor-an orowa,
モコロアン オロワ
眠る・我らは それから
眠ってから、

※1 参考: kotnekotne「穴だらけの」(方278-29)、tokse kotne「ぼこんぼこん」(金Ⅲ-220)

5279 nisatta pirikano
ニサッタ ビリカノ
あした よく
明日しっかり
5280 shitchashnure-
シツチャシヌ レ(←シ、チャシヌレ)
返りをさっぱりさせる
はき掃除
5281 an kuni
アン クニ
我らが べき
することに
5282 a-uweraman.
アウウエラマン(←ア ウ エラマン)
我らは・互いに わかる
決めました。

3-6 昼の叱責への思い

5283 A-matakibo
ア マタキ ボ
我・の妹+(親称接尾辞)
義妹は
5284 eashka tanto
エアッカ タント
本当に この日
それこそ今日
5285 kunnewano
クンネ ワノ(←クンネ イ ワノ)
暗い時 から
まだ暗いうちから
5286 kor yubi
コロ ユビ
持つ その兄
兄ぎみが
5287 rayaikeko
ライイケコ
穏やかな+(反語接尾辞)
おだやかでなく
5288 i-kobashrota
イコバシロタ
我に・対し ののしる
わたしをののしる
5289 hawe shino
ハウエ シノ
その声 本当に
ことばを本当に
5290 i-eko-
イエコ
我を・それ に対して
わたしに対して
5291 yaikataikap ※1 kuni p
ヤイカタイカプ(←ヤイカ ャイカプ) クニッ
自身形 拙い はずのこと
気の毒に思っている
5292 konep ne kusu,
コネ ヲ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 故に
ものだから、
5293 i-orun inkar ko
p.117 イオルン インカラ コ
我・の方へ 見ると
わたしの方を見て、
5294 shikihi ika
シキヒ イカ
その眼 を越える、またぐ
(?)
5295 kane, shino
カネ シノ
状態で 本当に
(?)本当に
5296 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オロ タ)
心 の所で
心の中で
5297 ramusarak ruwe
ラム サラク ルウェ
その心 苦しむ その様
心配していることが
5298 a-noeraman.
アノエラマン
我は・よくわかる
はっきりわかりました。
5299 Aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 であつても
わたしも
5300 a-keutum kashi
アケウトウム カシ
我が・気持ち の上
気持ちの上では

5301 chishkot kane
チシコツ カネ
泣き死ぬ 状態だ
泣き死にしていまいそうでした
5302 yakka an-eyainita.
ヤッカ アネヤイニタ(←アン エ ヤイニタ)
したけれども 我は・それを 我慢する
が、ぐっと我慢しました。
5303 Nekona
ネコナ
どのように、どう
どんなに
5304 yayomap-an hene
ヤヨマブ(←ヤイ オマブ) アン ヘネ
自分を可愛がる・我が ても
悔しい思いや
5305 irushka-an hene
イルシカ アン ヘネ
怒る・我が ても
腹立だしい思いを
5306 ki a yakka,
キ ア ヤッカ
し た としても
したとしても、
5307 taban tewano
タバ(←タッ アン) テワノ
今ここにある ここ から
これからはもう
5308 somo chish kuni
ソモ チシ クニ
(否定) 泣く べき
泣くまいと
5309 a-keutum otta
アケウトウム オッタ(←オロ タ)
我が・心 の所で
わたしは自分自身で
5310 a-yep ne kusu,
アイエッ ネ クス
我が・言う こと だ から
決意したのだから、
5311 yupke rambo
ユッケ ラムボ
強い 気持ち+(指小辞)
勇気を
5312 a-yaikore
アヤイコレ
我は・自身に ~を与える
出して、
5313 sotki asam
ソッキ アサム
寝床 底
寝床へ深く
5314 a-koraushma.
アコラウオシマ
我は・へ 深い所 突進する
バツと潜り込みました。
5315 Ukuran wano
ウクラン ワノ
昨晚 から
夕べから
5316 somo mokor-
ソモ モコロ
(否定) 眠る・
眠れなか
5317 ambe ne kusu
アム(←アン) ベ ネ クス
我は もの である 故に
ったものだから、
5318 sonno shinki-an,
ソノノ シンキ アン
真に 疲れる・我は
すっかりくたびれ、
5319 sum kina ne
スム キナ ネ
しおれる 草 のように
しおれた草のように

※1「yay-kat-aykap<自身・形・拙い>恐縮する(金 I-56)、痛ましい思い、傷心(金 I-346)」

- 5320 a-noikosanu,
アノイコサヌ
我は・よれる バツとする
わたしはバタツと倒れ伏し、
- 5321 bateknetek
バテク ネ テク
ばかりである ちよつと～する
それつきり
- 5322 pirika mokor
ピリカ モコロ
よき 眠り
ぐっすりど
- 5323 torse mokor
トロセ モコロ
いびきをかか 眠り
高いびきをかいて
- 5324 iannyekar.
イアンノイエカラ(←イアラノイエカラ)
我に・全くからみつく+(他動詞語尾)
正体もなく眠り込んでしまいました。
- 5325 Setakno hetapne
セタクノ ヘ タツネ
ほんのわずかの間 かこれはまあ
短い間だったのか
- 5326 irukai hetapne
イルカイ ヘ タツネ
しばらく かこれはまあ
長い間だったのか
- 5327 mokor-an,
モコロ アン
眠る・我は
わたしは眠りこけ、
- 5328 inenep humi
イネ ネ ヲ フミ
どうである者 その音
何かの音に
- 5329 an-ekonramu
アネコンラム(←アン エ コ ラム)
我が・それで 持つ その心
わたしの心が
- 5330 karikari ※1
カリ カリ
回る+(重複)
ぐるぐる回って
- 5331 turushitara,
トゥルシタラ(←トゥル ウシイタラ)
垢が 付き 続ける
意識朦朧となり、
- 5332 tu utur sama
トゥ ウトゥル サマ
二 間 の側
その音の合間に
- 5333 re utur sama
レ ウトゥル サマ
三 間 の側
幾度も幾度も
- 5334 koyaimososo ※3
コヤイ モソソ
そこに 自身 目をさます+(反復)
目がさめ
- 5335 a-ki kushne ko,
アキ クス ネ コ
我は・～し ようとすると
ようとしては覚めきれないで、
- 5336 tu takarso ne
トゥ タカラ ソネ
二 夢 本当である
うつらうつらと
- 5337 re takarso ne
レ タカラ ソネ
三 夢 本当である
夢ごちになつて
- 5338 a-uweomante.
アウウエオマンテ(←ア ウ エ オマンテ)
我は・互いが～へ行か せる
気が遠くなつてしまいます。

※1 a-kon-ram-konna kari-karil <我が・もつ・心・内=我が心持ち とひまほる、ぐるうとまほる(反復)> 餘り激して夢中になるこいつも云ふ語 / ぐらぐらして (研W503)

※2 原綴 koyaimososa | ko-yai-mososo (原綴 mososa) <そこに・自身を・目をさます>。mososo は moso <目をさます> の反復形 = moso-moso (金 I -136 『yaimoshosho』(研W599))

第4章 争いの発端

4-1 目が覚めると洋上に

- 5339 Aine hunakbakita
p.118 アイネ フナクバケタ(←フナク バク イタ)
したあげく どこに 及んだ 時に
そうやっていて、どれほどたつてか
- 5340 yaishikarun-an ※1
ヤイシカルン アン
自身に われと気がつく・我は
わたしは正気に返りました。
- 5341 Seennekasui
セエンネカスイ
まさかまた～しない
まさかまた
- 5342 shiran kuni
シラン(←シ、アン) クニ
様子 ある はずと
状況がそうになっているとは、
- 5343 inkar-an kuni
インカラン(←インカ、アン) クニ
眺める・我が はずと
そんなものを見るとは
- 5344 a-ramu roki,
アラム ロキ(←ロク、イ)
我は・思っ た ところ
思わなかったのに、
- 5345 ouse nishka
オウセ ニシカ
尻 離れて別に 雲上
空中の雲の上
- 5346 a-koshikmaka.
アコシクマカ
我は・に向かって 目を開く
わたしは目を覚ましたのでした。
- 5347 Atuiso ka ta
アトウイソ カ タ
海原 上 に
沖に向かって
- 5348 kani pom benchai
カニ ポム(←ボン) ベンチャイ
金の 小さい 弁財船
金の小さい帆掛け船が
- 5349 kotbok riri
コツボク リリ
直前の 波
触先にあたる波を
- 5350 kotososatki,
コトソサツキ
に対してドサドサという音をたてる
ザァザァ蹴立てて、
- 5351 ai tune shiri
アイ トウネ シリ
矢 線条のような その様
まるで矢が飛んでいく
- 5352 op tune shiri
オッ トウネ シリ
槍 線条のような その様
槍が飛んでいく
- 5353 ekannayukar
エ カンナ ユカラ
それについて 再びまねる
さながらに
- 5354 kambe kurka
カムベ(←カン、ベ) クルカ
表面の水 の上面一帯
波の上を
- 5355 echararse
エ チャララセ
そこを するする滑る
一直線に
- 5356 hoyubu humi
ホユブ フミ
走る その音
サーツとすべって行く音
※5「物を見る目だから、見るともなく、強いて見ようとして見たではないが、ふと見たら、の意)」[研731 脚注]

- an-ekisar shut konna
アネキサラストウ(←アン エ キサラ ストウ)コンナ
我は・それでもって 耳元 が
でわたしの耳元
- 5358 maukururu.
マウ クルル
気がかすめる
に風がうずまき起こる。
- 5359 Sarambe kaya
サラムベ カヤ
上等の布 帆
絹の帆が
- 5360 kayatek konna
カヤ テク コンナ
帆の 手 が
帆柱を
- 5361 koreunataru,
コレウナタラ
に対して 曲がる その状態が続いている
たわませ、
- 5362 kaya honkese
カヤ ホンケセ
帆 腹の末
帆の下っ腹を
- 5363 toknataru.
トゥナタラ(←トクセ ナタラ)
ふくらむ その状態が続いている
ふくらませています。
- 5364 Kayani ※2 noshkike
カヤニ ノシキケ
帆の木 真ん中の 所
帆柱の中央に
- 5365 kani itoat ari
カニ イトアツ アリ
金の 糸 紐 でもって
金の紐で
- 5366 a-i-kopirika-
アイコピリカ
人が・我を・に対しよく
わたしはしっかり
- 5367 shinashina,
シナ シナ
縛る 縛る
縛り付けられ、
- 5368 i-chorbokike ※3 ta
イチヨロボキケ タ
我の・その下の 所 に
わたしの下に
- 5369 sui a-matakibo !
スイ アマタキボ
また 我の妹・(親称接尾辞)
またわたしの義妹が!
- 5370 kayani kurka
カヤニ クルカ
帆柱 の表面上
帆柱に
- 5371 a-matakipo ※3
アマタキポ
我の妹・(親称接尾辞)
わたしの義妹が
- 5372 a-koshina-
アコシナ
人が・に対し 縛る
しっかり縛り
- 5373 shina kane
シナ カネ
縛る 状態で
つけられていて、
- 5374 a-koyaishikarun.
アコヤイシカルン
我は・～に対して 自身で 我と気がつく
そこにわたしは正気ついたのでした。
- 5375 Eirbakno sui
エイバクノ スイ
と一緒に・(副詞語尾) また
と同時にまた

- 5376 a-matakipo
アマタキポ
我の妹・(親称接尾辞)
わたしの義妹
- 5377 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にし ても
も
- 5378 yaishikarun.
ヤイシカルン
自身に われと気がつく
正気に返りました。
- 5379 inkar-an ko
インカラン(←インカ、アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 5380 nanuisamka ta
ナヌイサムカ(←ナン ウン サムカ) タ
船首の わき上 に
へさきの側
- 5381 ponurartapkop
ポヌラタツコブ(←ボン ウララ タツコブ)
小さい もやの 丸い山
丸いもやの塊が
- 5382 wororatkip ※4
ウオロラツキブ
p.119 水中に 下がる もの
ともがいで
- 5383 bekotobo
ベコトボ
水と共に 回す
水をかき回し
- 5384 bekonoiba
ベコノイバ(←noye複)
水と共に ひねる
水をかき返す
- 5385 koyaimaknakur-
コヤイマクナクル
に対して 自身を 後ろ方・(助詞)
その度に 身体を 後ろに ぐっと
- 5386 teshba kane.
テンバ(←tesu複) カネ
反らす 状態だ
反らしています。
- 5387 Shinki chiki
シリキ チキ
その様をしたら
そうするから、
- 5388 shikbo ne kusu ※5
シクボ ネ クス
目・(指小辞) である から
見るともなしに
- 5389 a-kourarchari wa
アコウララチャリ ワ
我は・に向かって もやを 散らして
わたしが そのもやを 散らして
- 5390 inkar-an ko,
インカラン(←インカ、アン) コ
眺める・我が と
見ると、
- 5391 a-shiketoko-
アシケトコ(←ア シク エトコ)
我が・目の 先
わたしの目の先が
- 5392 raikosamba.
ライコムバ
移動する サツと～する
さつと届きました。

※1 原綴 | -an 欠。

※2 原綴 | kani。

※3 この行は不審である。

※4 原綴 | Ichororbokiketa

4-2 神々しき者の顕現

- 5393 Ponainu ponkuru※1
ポナイヌ(←ポン アイヌ) ポン クル
若い 人 若い お方
年若いお方
- 5394 okai nankor'a !?
オカイ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
ある だろう か
なのでしょうか。
- 5395 Tamba newa
タムバ(←タンバ) ネ ワ
今年 になって
一歳ほど
- 5396 Otasam un kuru
オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびと
- 5397 ponno turkasuno
ポンノ トウルカスノ
少し 過ぎる(副詞語尾)
より少し
- 5398 shikup kotomno
シクフ コトムノ
成長する らしい
年上らしく
- 5399 a-ramu kuni p,
アラム クニ プ
我は・思う はずの 者
思える者が、
- 5400 kani kosonte
カニ コゾンテ
黄金の 小袖
金糸銀糸の豪華な衣装
- 5401 ninaimine
ニナ イミ ネ
同じような 衣裳 に
中から外まで同じようなよい小袖のみ
- 5402 arutomechiu,
アルトメチウ(←アラ ウトム エチウ)
全く互いに 中へ差す
を襲ね着し、
- 5403 uwokkanikut ※2
ウ ウオク カニ クツ
互いに 引っかけける 金屨 帯
かなぐさりのベルト
- 5404 tumamkosaiba,
トゥマム コ サイバ
胸にぐるぐる巻き付ける
を胸に締め、
- 5405 kamuiranketam
カムイランケタム
神が降ろした 刀
神からさずかった太刀
- 5406 etembok konna
エテム ボク コンナ
それでもって 手 下(調律)
でもって脇の下あたりが
- 5407 chashnatara.
チャシナタラ
りっぱで勇ましい
きらびやかです。
- 5408 Kani pon kasa
カニ ポン カサ
金の 小さな 笠
金色の兜の
- 5409 kasa rantubep
カサ ラントウベフ
笠 垂れている 紐
その垂れひも

- 5410 eyaisannan kurka
エ ヤイ サンナン クルカ
それで自分の出ている顔 表面上
で自分の顔を
- 5411 yupba kane,
ユフバ カネ
~を締める 状態で
きりりと緊め、
- 5412 kasa kepsam ta
カサ ケフサム タ
笠 縁 側 に
兜の縁からは
- 5413 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 出る その顔
神々しいお顔が
- 5414 komaknatara.
コ マクナタラ
共に 輝く
明るく輝いています。
- 5415 Rametok ibor
ラメトク イボロ
大胆な 顔色
勇者らしいおもざし
- 5416 eibottumu
エイボツ(←エ イボロ) トウム
それで 顔色 の中
で顔つきが
- 5417 koniunatara,
コニウナタラ(←コ ニウエン イタラ)
に対し 強そうな形相を し続ける
きりりとしており、
- 5418 enewaboka
エネ ワ ボカ
いかにしてさえも
どうにもこうにも
- 5419 a-reka i ka
アレカ イ カ
我は・褒める 所 も
ほめる言葉も
- 5420 oarar isam.
オアララ イサム
まったく 無い
ないほどの美しさです。
- 5421 A-raukikur-
アラウキクル
我が・心中深く+(助辞)
わたしが密かに
- 5422 uwante wa
ウワンテ ワ
を見調べ て
うかがい
- 5423 inkar-an ko,
インカラン(←インカラ アン) コ
見る・我が と
見ると、
- 5424 oar oar
オアラ オアラ
全く+(重複)
まったくもって
- 5425 atanan
アタナン
普通の
ありきたりの
- 5426 ainu bito※3
p.120 アイヌ ビト
人間の 長者
人間のお方
- 5427 somo ne.
ソモ ネ
(否定)である
ではありません。

- 5428 kamui ne i noine
カムイ ネ イ ノイネ
神 であること らしく
神であるらしいことが
- 5429 shibopke ruwe
シボツケ ルウエ
自身を 暖くする その様
衣装の様子や
- 5430 ibor eun ruwe
イボロ エ ウン ルウエ
顔つき そこにはまる その様
容貌に現れている様子
- 5431 a-eraman kane.
ア エラマン カネ
我は・わかる 状態だ
でわかりました。

※1 ponainu ponkur「pon-ainu pon-kur<小・人 小・人>わかき小人。この pon '小' はすべてうつくしいふ云ひ方(atomte itak)であると」(研W485 脚注)

※2 uwokkanikut「黄金の鈎帯…腰の圍りへーばいこせんまいのさがつてある胸じめ。(中略)古く棒太を通じて船載したシヤマンの緊めるもの」(研W250)

※3 ainu bito「人間の長者 邦語のひとつ似た語であるが、アイヌ語では殆ど神 kamuiと同義語に用いられる」神入と運べる時のやうに入が神かたとへている語(研W318)、神の如き人(研W424、研W450)。

4-3 驚嘆する私	5450 koneun tapne コネウン タツネ (調律、強調) どこかへ このように どこかへ	4-4 クロラニびとの語り
5432 Inkan ne wa インカン(←インカ) ネ ワ ものを見る であって それを見ただけ	5451 i-ekira-an shiri イエキラ アン シリ 我らを・で 逃げる 人が その様 誘拐されてきた	5469 Sonno homatba- p.121 ソンノ ホ マツバ まことに 尻を挙げる(←homatu複) 本当にわたしたちは驚い
5433 a-ki p ne koroka アキ ヲ ネ コロカ 我は・をする もの だ けれど であつたけれど	5452 okai i bakno オカイ イ バクノ ある こと まで ことまでも	5470 an kane, アン カネ 我らは 状態で て、
5434 shiyoro keutum シヨロ ケウトウム 心の底からの 気持ち 心底驚き、	5453 mokonnoye モコンノイエ(←モコロ ノイエ) 眠りが からむ ぐっすり寝込んで	5471 enewaboka エネ ワ ボカ いかにして さえも もうどうして
5435 irushka keutum イルシカ ケウトウム 怒る 気持ち 猛烈に腹が	5454 okai ruwe, オカイ ルウェ いる その様 いたことも、	5472 iki-an i ka イキアニカ(←イキ アン イカ) 物事をする・我らは ことも いいの
5436 a-yaikore. アヤイコレ 我は・自分に~を与える 立ってきました。	5455 eashka sui エアシカ スイ 大いに また それこそまた	5473 shibutba boka シブツバ ボカ 自身を出す(=出る) でも 縄から出ようとする身動きさえ
5437 Ne moshiri kor be ネ モシリ コロ ベ どの 島 を持つ 者 どこの国の者が	5456 toi yayikush トイ ヤイクシ ひどく 恥じ入り 恥ずかしいやら	5474 a-eaikap. アエアイカ 我らは・それを 出来ない できません。
5438 ne kotan kor be ネ コタン コロ ベ どの 村 を持つ 者 どこの村の者が	5457 wen yayikush ウェン ヤイクシ 悪い 恥じ入り 情けないやら	5475 Sonno bitboshina ※ ソンノ ビツボシナ 本当に ござ織機の 小石-(指小辞) の 縛り方 まさに 小石縛りに
5439 okai wa namne ※1 オカイ ワ ナムネ 居 て さえも尚 居るにもことかいてとんでもなく	5458 a-ki kane. アキ カネ 我は・~をする 状態である 思っていました。	5476 a-i-y-ekarkar be アイイエカラカラ(←アイ エカラカラ) ベ 人が・我らを・~にする もの されているもの
5440 katkoro shiri, カツコロ シリ あり方を持つ その様 振る舞うこと、	5459 Inepkor ※ kane イネッコロ カネ 我・のような 状態で わたしと同じように	5477 konepnekusu コネ ヲ ネ クス (調律、強調) であるもの である 故に だから、
5441 sonno nei bakno ソンノ ネイ(←ネ) バクノ 本当に それ まで まったくそれまで	5460 a-matakibo アマタキ ボ 我・の 妹+(親称接尾辞) 義妹	5478 ponno ka ポンノ カ 少し も 少しも
5442 mokonno-an モコンノ(←モコロ ノ) アン それこそ 眠る よく・我は ぐっすり寝込んで	5461 newa ne yakka ネワ ネ ヤッカ であつた にし ても も	5479 moimoike ka モイモイケ カ 動き も 動くことも
5443 rok be kusu, ロク ベ クス た もの 故 いたせいか、	5462 yainu kotomno, ヤイヌ コトムノ 思う らしい そう思っているらしく、	5480 hese boka ヘセ ボカ 息 すらも 息することさえ
5444 tapne tapne タツネ タツネ こう こう このような	5463 ouse sabaha オウセ サバハ ただ~だけ その頭 ただ頭だけを	5481 a-koyaikush kane. アコヤイクシ カネ 我らは・できない 状態で できないほどです。
5445 i-kar-an イカラン(←イカラ アン) 我に する 人が 目に合わされ、	5464 moimoikere モイモイケレ 動かさせる 動かして	5482 Ne kotan koro be ネ コタン コロ ベ どの 村 を持つ 者 どこの村の者は
5446 konep atui コネ ヲ アトウイ (調律、強調) 何 海 どこの海	5465 i-kohebuni, イコヘブニ 我に・向かって 顔を上げる わたしを見上げ、	5483 shineikinne シネイキンネ(←シネ イキリネ) 一列に
5447 atuiso ka ta アトウイ ソ カ タ 海原 上 に どこの沖なのか、	5466 utashba kane ウタシバ カネ 互いに tasa '交換する' 複数形 状態で お互いに	いっせいに
5448 tuimano heokai ? トウイマノ ヘオカイ 遠くに なの か 遠くなのか	5467 shik ari uko- シク アリ ウコ 目 でもって 互いに 目を見合わせて	5484 i-kurkashike イクルカシケ 我らの・身体の上 わたしたちの方
5449 hankenoe heokai ? ハンケン オカイ 近くに なの か 近くなのか	5468 shiyoro-an kane シヨロ アン カネ 驚く・我らは 状態だ 心底驚き合いました。	5485 shikomare, シコマレ(←シク オマレ) 目 を~に入れる に目をやり、

※1 okai wa namne! …接続詞的な慣用句。同じことを okai-wa-tapne ともいう。やつが居てそのため(わるいことなどが)こうなる(金Ⅲ-438)、居てさえも、居やがって、居てけつがって、居くさって(金Ⅳ-268)

※2 Inepkor「我のやうなもの、我が如きもの(研979)、我の如くに(金Ⅴ-226)」

※3「小石縛り。簾や産を編む時に小石へ糸を縛って垂らしたものを彼方此方へおろして編んでゆく、その小石のようにはばられている意」(金Ⅴ-119)

5486 i-rekabap イレカバ プ 我らを・ほめる+(複数語尾) もの わたしたちを褒めるの	5504 katkemat utar! カツケマツ ウタラ 淑女 たち 淑女たちよ。	5522 tu irwak newa トゥ イリワク ネワ 二人 兄弟 と 二人兄弟と
5487 newa ne yakne ネワ ネ ヤクネ であって である ならば であるなら	5505 Itak-an chiki イタカン(←イタッ アン) チキ 言っ・我が たら われらの言うことを	5523 shine turesh ne wa シネ トウレシ ネ ワ 一 妹 であって 一人の妹が
5488 kotomkorkaiki, コトム コカイキ 似つかわしい けれども+物事をする いいのに、	5506 pirikano nu wa ピリカノ ヌ ワ よく 聞いて よく聞いて	5524 Kuroran※2 kotan クロラニ コタン クロラン 村 クロラン村
5489 tun a-ne wa トゥン アネ ワ 二人の 我ら・であって わたしたち二人を	5507 i-kore nukak イコレ クナッ(←クン ヤッ) 我に・与える べきである ということ くだ	5525 kotan noshkike コタン ノシキケ 村 真ん中の 所 の中央に
5490 huihuinawano フイフイナワノ どこどこの方から 隅から隅まで	5508 ramuba yan! ラムバ ヤン 思う+複数形語尾: なさい され。	5526 a-i-orapte wa. アイオラッテ ワ 人が・我らを・そこに 降ろす して 降ろされた。
5491 i-uwambare. イウワムバレ 我らを・観察する じっくり観察しました。	5509 Aokai anakne アオカイ アナクネ(←アン ヤクネ) 我 ある ~するならば われらは	5527 Kamui a-ne kusu カムイ アネ クス 神の 我ら・である 故に われらは神だから
5492 I-tukarikebo イトウカリケボ 我らの・その手前+(指小辞) わたしたちの顔は直視せずに	5510 konep ainu コネッ アイヌ (調律、強調) 何 人間 人間	5528 kamui batek カムイ バテッ 神 ばかり 神とだけ
5493 koshikerana- コシケラナ に向かって その目を 低い 方に 目を	5511 a-ne ruwe ka アネ ルウェ カ 我・である 事実 も では	5529 utanne a-kor hine ウタンネ(←ウタラ ネ) アコロ ヒネ 仲間 として 我は・持つ して 同族に持って
5494 atte kane, アッテ カネ 掛ける 状態で 伏せて、	5512 somo ne. ソモ ネ (否定) である ありませぬ。	5530 ainu moshiri アイヌ モシリ 人間 の世界 人間界、
5495 kosacha otta コサンチャ オッタ(←オロ タ) に対し 前の 口 の所に 笑みを	5513 Tuima kane トゥイマ カネ 遠い 状態の はるか遠い	5531 moshiriso kurka モシリソ クルカ 国土 広がりを持つ 所の 上面一帯 地上の世界で
5496 mina kane ミナ カネ 笑みを浮かべる 状態で 浮かべながら、	5514 a-kor kotani p.122 アコロ コタニ 我が・持つ その村 わが村の	5532 a-koiraukituba アコイラウキトゥバ 我らが・に 仕事に行く われらの役目を果たし
5497 itak ne manu イタク ネ マヌ 言葉 である という 彼らの言葉	5515 reikor katu レイコロ(←レ コロ) カトゥ 名前を持つ その有様 名は	5533 koro okai-an. コロ オカイアン ながら いる・我らは ていた。
5498 eraun kuchi エラウン クチ それで 奥にある その喉 でその喉を	5516 Kuroran※1 kotan ne. クロラン コタン ネ クロラン 村 である クロラン村であります。	5534 Tane anakne タネ アナクネ 今 は もう今は
5499 tununitara, トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ) 澄んだ高い音 鳴り続く 美しく響かせ、	5517 Kamui orwano カムイ オロワノ 神 その所 から 神から	5535 kamui buri カムイ ブリ 神の 習慣 神々の風習が
5500 itak hawe イタク ハウエ 言う その声 言う声が	5518 kanto orwano カント オロワノ 天 その所 から 天から	5536 ene okai i エネ オカイ イ こう ある こと このようなこと
5501 ene okai i; エネ オカイ イ こう ある こと こうあるには;	5519 a-ranke kotan ne wa, アランケ コタン ネ ワ 誰かが 降ろす 村 であって 降ろされた村であって、	5537 konepnekusu コネッ ネ クス (調律、強調) であるもの である 故に だから、
5502 " Koninkar kusu! コニンカラクス(←コン インカラ クス) 早く! 見る+(感嘆の助詞) 『これこれ、	5520 kotan a-i- コタン アイ 村 人が・我を 村の	5538 a-akihit tura アアキヒ トウラ 我が・弟 と共に わが弟と一緒に
5503 ainu pon アイヌ ポン 人間の 若い 人間のお若い	5521 esabanere kusu エ サバネレ クス そこで 頭になら せる から 長になるために、	

※1 kuroran[kur-o-ran-i<雲・そこから・湧き出し又収まる・所>]《クロラン村に関する萱野茂訳》「大地の果て/草木もなく/鳥も住めない/砂漠の国(教IV-52)、村の後には/いろいろな神/鬼の様な恐ろしい魔神がいる(教22-84)」

※2 kur-o-ran-i<雲・そこから・湧き出し又収まる・所>

5539 okkai bakno オッカイ バクノ 男 まて 一人前の男に	4-5 拐かされる二人	5575 Pon katkemat ボン カツケマツ 若い 淑女 若い姫
5540 shikup ko, シクッ コ 成長すると なると、	5557 Tambe kusu タムベ(←タン ベ) クス このこと 故に それゆえ	5576 ne yakka ネ ヤッカ であつても も
5541 yairamkotba-an ヤイラム コツバ アン 自身の心を結ぶ(←kote 複)・我らは 結婚する	5558 ainu moshiri アイヌ モシリ 人間 の世界 人間界、	5577 tap eashiri タッ エアシリ 今 初めて それこそ
5542 kusu ne. クス ネ つもりである。 だろう。	5559 moshiriso kurka モシリソ クルカ 国土 広がりを持つ所 の上面一帯 地上の世界を	5578 a-akih ア アキヒ 我が・弟 わが弟
5543 Kamui a-ne kusu カムイ アネ クス 神の 我らである 故に われらは神だから	5560 neita bakno ネイタ バクノ どこ までも どこまで	5579 a-kotomka ア コトムカ 我が・ふさわしい+(他動詞化語尾) と結婚させるには(？)
5544 heru kamui ne ヘル カムイ ネ ただ~だけ 神 で 神同士で	5561 ne yakka ネ ヤッカ であつても も	5580 ponno wen ari ボンノ ウェン アリ 少し 悪い と いささか劣るか
5545 utomnukar-an ウトムヌカラ アン 互いの 体を見・我は 結婚する	5562 heru ram ari ヘル ラム アリ ただ~だけ 心 でもって ただ術だけで	5581 yainu-an koroka, ヤイヌ アン コロカ 考える・我は けれども 思ったけれども、
5546 yainu-an kusu, ヤイヌ アン クス 考える・我は 故に と考えていたから、	5563 shiruwante-an シルワンテ(←シ)ウワンテ) アン 迎りを諷べる・我は 見回し	5582 tun echi-ne トゥン エチ ネ 二人 汝ら・である そなたら二人を
5547 kamui otta カムイ オッタ(←オロタ) 神 の所に 天界に	5564 ihunara-an aike, イフナラ アン アイケ 物を 探し・我が たのだが 調べたところ、	5583 echi-eikka-an, エチ エイッカ アン 汝らを・で 盗みをする・我が われがかどわかし、
5548 a-yaikotomka ア ヤイコトムカ 我が・自分に ふさわしい+(他動詞化語尾) われが自分の結婚相手として	5565 Otasam un kuru オタサム ウン クル 砂浜 側 に住む お方 オタサムびと	5584 tap korachi タプ コラチ この ごとく このように
5549 kuni p newa クニ ッ ネワ はずの 者 と ふさわしいと思う人や、	5566 ainu rametok アイヌ ラメトク 人間の 勇者 人間の勇者	5585 echi-ekira-an katu, エチ エキラ アン カトウ 汝ら・~と一緒に 逃げる・我が 事情、この次第 そなたら連れて逃げたそのわけは、
5550 a-akih ア アキヒ 我が・弟 わが弟と	5567 a-koreshu ※1 アコレシュ(←ア コレス) 人々が・に対し 育てる に育てられていた(？)	5586 ainu anakne アイヌ アナクネ 人間 は 人間というもの
5551 a-kotomka kuni p アコトムカ クニ ッ 我が・ふさわしい+(他動詞化語尾) はずの 者 結婚させたいような人を	5568 PonTeseu um mat ポンテセウ ウム(←ウン) マツ 小 テセウ に住む 女性 ポンテセウ姫は	5587 shiketoko- シケトコ(←シク エトコ 目の先 目さきの
5552 a-hunara koroka アフナラ コロカ 我が・探す けれども 探したけれども、	5569 tap eashiri タッ エアシリ 今 初めて それこそ	5588 takne ※2 kuni p タクネ クニ ッ が短い はずの 者 ことしかわからない
5553 sonno pirikap ソンノ ピリカッ まことに 美しい 者 本当に善い者	5570 shiretok tura シレトク(←シ、エトク) トウラ 容子 先端 とともに 美貌とともに	5589 konepnokusu コネ ッ ネ クス (調律、強韻)であるもの である 故に ものだから、
5554 sambe-a-ramuoshma p p.123 サムベ・ア・ラムオシマ ッ その心・我が・落ちつく、そこにサツと入る 者 われの心にかなう者は	5571 teketok tura テケトク(←テク エトク) トウラ 手先 とともに 刺繍の腕も	5590 nen ka eramishkare ネン カ エラミシカレ 誰 も 知らない 誰も知らない
5555 oar moyo isam オアラ モヨ イサム 全く 少ない 無い 少ない	5572 a-yaikotomka. ア ヤイコトムカ 我が・自分に ふさわしい+(他動詞化語尾) わが結婚相手としてびったりだ。	5591 ruwe taban na. ルウェ タバン(←タッ アン) ナ 事実 これこのとおりある よ のだよ。
5556 korachi ne. コラチ ネ ごとく である ようだ。	5573 Naa samata ナア サマタ まだ その他に その他に	5592 Otuima shiri wa オトウイマ シリ ワ そこから 遠い 迎り から ずっと遠い所から
	5574 Otasam um mat オタサム ウム(←ウン) マツ 砂浜 側 に住む 女性 オタサムの	5593 a-nukarba yakka アヌカラバ ヤッカ 我が・~を見る・(複数語尾) ても 見ても

※1 | ko-resu <それに対して・育てる> 夫婦にするつもりで (金 I-318)

※2 vshiketokotaknep 《萱野茂訳》「遠くを見えない」(教XIII-49)、見えた物のみ理解する(教XIII-96)】

- 5594 pirika ruwe okai
ピリカ ルウェ オカイ
美しい その様 あっ
美しかっ
- 5595 rok be ne kusu,
ロク ベ ネ クス
た ものである 故に
たのだから、
- 5596 tap nohankeno ※1
p.124 タフ ノハンケノ
こう ごく近い(副詞語尾、添え字)
さいわいにもずっと近くで
- 5597 a-nukar be
アヌカラ ベ
我が～を見る もの
見たら、
- 5598 mashkin
マシキン
ますます
あまりにも
- 5599 kamui menoko utar
カムイ メノコ ウタラ
神の 女性 たち
女神たちが
- 5600 tu okkashi ta
トゥ オッカシ タ
ニ まだその上 に
何倍も
- 5601 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三 まだその上 に
数倍も立派で
- 5602 sonno hetapne
ソンノ ヘタッネ
本当 か これはまあ
本当にまあ
- 5603 echi-shiretok-
エチ シレトク(←シ) エトク
汝らは・ 様子 の先端
そなたたちはあまりにも器量が
- 5604 korkashba
コロ カシバ
を持つ あまりにも～過ぎる+(複数語尾)
よく、
- 5605 echi-pirika-
エチ ピリカ
汝らは・美し
あまりにも美し
- 5606 kashba ruwe,
カンバ ルウェ
過ぎる その事実
すぎるその姿は
- 5607 iramkursere
イラムクルセレ
人を驚かせる
なんと驚くべき
- 5608 iramtoinere
イラムトイネレ
人を驚かせる
おそれるべきもので
- 5609 okai be ne ya !?
オカイ ベ ネ ヤ
ある 事 である のか
あることか。
- 5610 Pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
良い よう に
いいあんばいに
- 5611 naa somo okkai-
ナア ソモ オッカイ
まだ (否定) 男
まだそなたたちが男
- 5612 echi-eramush ruwe
エチ エラムシ(←エラム ウシ) ルウェ
汝らが・ そこに心つく その様
に慣れていないことが

- 5613 iyotta a-enubetne
イヨッタ ア エヌベツネ
いちばん 我は それについて 嬉しい
いちばん嬉しい
- 5614 ruwe taban.
ルウェ タバン(←タフ アン)
事実 これこのとおりある
のだ。

4-6 神との婚姻の提案

- 5615 Pon katkemat utar !
ポン カツケマツ ウタラ
若い 淑女 たち
若い姫たちよ。
- 5616 Nekona ne ya ?
ネコナ ネ ヤ
どう である か
いかがかな?
- 5617 Ainu hoku
アイヌ ホク
人間 の夫
人間の男を
- 5618 echi-kor kasuno
エチコロ カスノ
汝らが・持つ しのぐ(副詞語尾)
そなたたちが夫にするよりも
- 5619 kamui hoku
カムイ ホク
神 の夫
神の夫を
- 5620 echi-kor i
エチコロ イ
汝らが・を持つ こと
持つほうが
- 5621 sonno echi-nubetne
ソンノ エチヌベツネ
本当に 汝らは・喜ぶ
まことに嬉しい
- 5622 nankor. Nekona
ナンコロ ネコナ
だろう どう
はずだ。どのように
- 5623 echi-yainu
エチ ヤイヌ
汝らは・考える
そなたたちは思う
- 5624 ruwe ta an?
ルウェ タ アン
その事実 (強調) ある
のか?
- 5625 Echi-koban
エチ コバン
汝らが・拒否する
そなたたちが嫌がっ
- 5626 apkusu,
アプクス
たこと、もの 故に
たとしても、
- 5627 Kuroran kotan
クロラン コタン
クロラン 村
クロラン村の
- 5628 kotan upsoroho
コタン ウプソロホ
村 その様
村の中
- 5629 echi-oshireba
エチ オシレバ(←オ シリエバ)
汝らが・に 着く—そのの 土地 に着く)
にそなたたちが着いた
- 5630 koanakne,
コアナクネ(←コ アン ヤクネ)
とある すれば
ならば、
- 5631 nekona echi-
ネコナ エチ
どう 汝らが
どう
- 5632 kichi a yakka,
キチ ア ヤクカ
ki 'する' 複数形 た としても
あがいたとしても、

※1 「no-hanke-no…よいあんばいに近さを幸いに…(金I-97)、よく近く、好都合に、いい具合に近くで(金I-179)、…ごく近く(添え辞) > hankeは親しみの意。…(研655)、…遠くもないんだから、ちよつから来てくれの意(研791)」「【副詞】ずうっと近く」(語法)

5633 echi-kor kotani un
エチ コロ コタニ ウン
汝らが・持つ その村 へ
そなたたちの村へ帰ることは

5634 echi-hokamba
エチ ホカムバ
汝らは・むずかしい
ややこしくて

5635 eaikap ruwe
エアイカブ ルウエ
できない その事実
できないの

5636 taban na. itekki
タバ(←タブ アン) ナ イテッキ
これこのとおりある よ 決して~するな。決して

5637 chikoitakkashino ※1
チコイタッカシノ
~ことに対して 言うことをきかない+副詞語尾)
言葉そむかず、

5638 a-yep nu wa
p.125 アイェッ ヌ ワ
我が・言うこと 聞くして
わが言うことを聞いて

5639 i-kore kunak
イコレ クナ(←クン ヤッ)
我に・与える べきである ということ
くだ

5640 ramuba yan !
ラム バ ヤン
思う+(複数形語尾) なさい
され。

5641 Sonno neita
ソノノ ネイタ
本当に どこ
本当にどこ

5642 bakno ne yakka
バクノ ネ ヤッカ
までも であつ ても
までも

5643 sambe-etok-
サムベ エトク
心臓 先
心臓の先に

5644 echi-omare-an ※2
エチ オマレ アン
汝らを・に入れる・我が
入れるほど大事に思い、

5645 baranno echi-
バロンノ エチ
たくさん 汝らを・
おおいにそなたらを

5646 omap-an wa
オマフ アン ワ
可愛がる・我は して
かわいがって

5647 neita bakno
ネイタ バクノ
どこ まで
いつまで

5648 ne yakka
ネ ヤッカ
であつ ても
も

5649 uwepirika-an
ウ ウェピリカ アン
互いと一緒によくなる・我らは
幸せにくら

5650 kusu ne ruwe
クス ネ ルウエ
つもり である その事実
すつもりなの

5651 taban na. ari
タバ(←タブ アン) ナ アリ
これこのとおりある よ

5652 tuyetakneko ※3
トゥイエ タクネ コ
紐 短い (否定辞)
長々と

5653 ene itak rusui i
エネ イタク ルスイ イ
こう 言う を欲する こと
こう言いたいことを

5654 neino itak-a-itak-a,
ネイノ イタク ア イタク ア
そのように 言い続ける
くり返しくり返し言い続け、

5655 koyayohumse-
コヤヨフムセ(←コ ヤイ オ フムセ)
共に 自身 そこでフム! という気合の声
勢い込んで掛け声

5656 echiu kane.
エチウ カネ
を刺す 状態だ
もあげています。

※1参考:「itakkashi 言葉にたがふ、そむく、きかぬ」(研936)、chiko'takkashi iyekarkar」(金II-128、131)。

4-7 怒りと悪態

5657 Inu ne wa
イヌ ネ ワ
物事を聞く であつ ても
ただ聞いただけ

5658 a-ki p ne koroka
アキ プ ネ コロカ
我・~をする もの だ けれど
ではありませんが、

5659 turushno nepkoro
トゥルシノ ネフコロ
ごみまみれで濁った かのよう
怒りのあまり、狂ったように朦朧として

5660 an-ekutum kashii
アネケウトウム(←アン エ ケウトウム) カシ
我は・それで 気持ち の上
わたしの心は

5661 turushitara.
トゥルシタラ(←トゥル ウシ タラ)
垢が 付き 続ける
あとさきもわからなくなり、

5662 enewaboka
エネ ワ ボカ
いかにして さえも
わたしがどうした

5663 iki-an i ka
イキアニカ(←イキ アン イカ)
物事をする・我が ことも
のかも

5664 isam kane.
イサム カネ
無い 状態だ
わからなくなりました。

5665 I-shinashina-an
イシナシナ アン
我を・縛り縛りする・人が
わたしがぐるぐる縛られて

5666 somoki p
ソモキ プ
(否定) するもの
いないの

5667 newa ne yakne.
ネワ ネ ヤクネ
であつ ても である ならば
であれば、

5668 tap haweam be
タブ ハウエラム(←ハウエアン) ベ
今 言う 者
今言った者の

5669 a-enanko-
アエ ナン コ
我が・それを 顔 に向かって
顔を

5670 kikkik,
キッキク
打つ+(重複)
何度もなぐりつけ、

5671 a-enanko-
アエ ナン コ
我が・それを 顔 に向かって
顔を

5672 soshba,
ソシバ(←soso複)
何度もはがす、めぐりとる
めぐりとり(引つ掻き?)、

5673 a-wenyekar
ア ウエン イエ カラ
我が・悪く言う 作る
わたしが罵倒(?)

5674 boka ki wa
ボカ キ ワ
さえも する して

※2「かわゆくて、大事に思う意の表現。」(金III-316)「sampe-etok-omare<心臓の先・に入れる>《幌別》かわいがる」(人624)
※3 tuyetakneko! tanne tuye<長い紐>takne tuye<短い紐>と云ひ、紐・糸を tuye といふ。この tuye は紐のことで、紐を永くひつばる意味から時間を永くひつばる意」(研890)

- 5675 ponno hene
ボンノ ヘネ
少し でも
少しでも
- 5676 a-ehesep
アエヘセ ヲ
我は・鬱憤を晴らすもの
わたしのうつぶんを晴らせる
- 5677 ne koroka,
ネ コロカ
だけれど、
のだけれど、
- 5678 tap korachi
タフ コラチ
この ごとき
このように
- 5679 i-kar-an ruwe
イカラン(←イ カラ アン) ルウエ
我にする人が その事実
されて
- 5680 okai be ne kusu,
オカイベ ネ クス
ある 物 である 故に
いるのだから、
- 5681 sonno yayashish
ソノ ヤヤシシ(←ヤイ アシシ)
本当に 自身を罵る
ほんとうに情けない
- 5682 keutum a-yaikore,
ケウトウム アヤイコレ
気持ち 我は・自分に ~を与える
気持ちが湧いてきて、
- 5683 topsetopse-an
トフセトフセアン
トツという音を出す+(重複)・我は
わたしはベッベッ!と吐き捨て
- 5684 kaksekakse-an
カクセカクセアン
カッという音を出す+(重複)・我は
カーツカーツとつばを吐いて
- 5685 a-ranreurewe ※1
アランレウレウエ(←ア ララ レウレウエ)
我は・眉を曲げ曲げる
眉をしかめたり、
- 5686 a-rattoptobo.
p.126 ア ラットポトボ(←ア ラットポトボ)
我は・眉を廻し廻しする
ひくひく動かしたりしました。
- 5687 iki-an chiki,
イキアン チキ
物事をする・我が なら
わたしがそうしたら、
- 5688 a-matakipo
アマタキポ
我の妹(親類接尾辞)
わたしの義妹
- 5689 newa ne yakka
ネワ ネ ヤッカ
であった にしても
も
- 5690 somo i-echutkonno
ソモ イエ チュツコンノ
(否定) 我と違う
わたしと同じように
- 5691 yainup ne kusu,
ヤイヌッ ネ クス
思うもの である 故に
思っているものだから、
- 5692 ene iki-an i
エネ イキ アン(←アン イ)
こう それをする・我は こと
あのようにわたしがした
- 5693 korachi iki ko,
コラチ イキ コ
と同様に それをする と
みたいに義妹もしかめ面をする、
- 5694 Kurorani um be
クローニ ウム(←ウン) ベ
クローニ に住む 奴
クローニびとは
- 5695 emina haukan
エミナ ハウ カン
それについて 笑う 声の末尾
笑い声を
- 5696 tununitara kane,
トゥヌニタラ(←トゥヌン イタラ) カネ
金属音 続く 状態で
高くあげながら、
- 5697 ine hunak un
イネ フナク ウン
どう どこ へ
どこへやら
- 5698 kunne hene
クンネ ヘネ
夜 でも
夜も
- 5699 tokap hene
トカフ ヘネ
昼 でも
昼も
- 5700 chip bashte.
チフ バシテ
船を走らせる
船を進ませて行きます。
- 4-8 痛罵に思い馳せる
- 5701 Konepkeukata !
コネッ ケウ カタ
(調律) 何 体 上 感動!
おおあわれ、
- 5702 konepkashita !
コネッ カシタ
(調律) 何 上 感動!
ああかなしい。
- 5703 I-resuyubi
イレ ス ユビ
我を・育てる その兄
育ての兄さまの
- 5704 wenrenkabi
ウエン レンカビ
悪い 数量、意志
決めごとの(と約束した?)
- 5705 oman ikiri ※2
オマン イキリ
行く 一続き
いきさつ
- 5706 a-kokateun shiri
アコカテウン(←ア コカッ エ ウン) シリ
人(?)は・~に 状態 そこにはまっている その様
についての振る舞い(方法やりかた?)が
- 5707 wen kusu,
ウエン クス
悪くある 故に
まずかったから(?)
- 5708 Otasam un kuru
オタサム ウン クル
砂浜 側 に住む お方
オタサムびとが
- 5709 chiwennoramu
チ ウエンノラム
~のこと 悪く思う
わたしを悪く
- 5710 i-y-ekarkar,
イ イエカカ
我に・~をする
思って、
- 5711 tu arka itak
トゥ アラカ イタク
二つの 痛い 言葉
幾つもの痛罵
- 5712 re arka itak
レ アラカ イタク
三つの 痛い 言葉
数々の痛罵
- 5713 i-y-ekarkar,
イ イエカカ
我に・~をする
をわたしに浴びせ、
- 5714 i-orun
イ オルン
我の方へ
わたしの方に
- 5715 hosari boka
ホサリ ボカ
振り向く さえも
振り向くことも
- 5716 hekiru boka
ヘキル ボカ
頭を向ける すらも
顔を向けることさえ
- 5717 somoki.
ソモキ
(否定) する
しない。
- 5718 Keutum kashi
ケウトウム カシ
気持ち の上
気持ちの上では

※1「眉を上へあげたり/眉をひんまげたり」(金Ⅲ-184)「《観別》<眉・廻し廻しする/眉・曲げ・曲げ・する>眉をひくひく動かす/眉をしかめしかめする」(人618, 617)

※2 原綴 omin Ikiri

5719 kur ot ruwe
 クル オツ ルウェ
 陰(?) たくさんある(?) その事実
 気が晴れないこと(?)

5720 okai yakka,
 オカイ ヤッカ
 ある ても
 があつたとしても、

5721 konep wen keutum
 コネフ ウエン ケウトウム
 (調律、強誦) 何 悪い 精神
 何か悪い気持ちは

5722 pannoka
 ボンノカ
 少しも
 少しも

5723 somo a-kon
 ソモ アコン(←ア コロ)
 (否定) 我が・~を持つ
 持っていないわたしな

5724 ruwe ne kusu,
 ルウェ ネ クス
 その事実 である 故に
 のですから、

5725 ouse kamui batek
 オウセ カムイ バテック
 ただ 神 ばかり
 わたしはただ神にのみ

5726 chitomkokanu
 チトム コカヌ
 自身 まん中を傾聴する
 お任せ

5727 a-ki ari
 アキ アリ
 我は・を と
 すると

5728 yainu-an rokwa,
 ヤイヌ アン ロクワ
 考える・我は たところが
 思っていたのに、

5729 tane anakne
 タネ アナクネ
 今 は
 もう今は

5730 ramma
 ラムマ
 いつも
 いつも

5731 a-keshke kuni p
 p.127 アケンケ クニ ッ
 人々が嫉妬する はずの者
 人々にやっかまれるような

5732 maukowen kuni p
 マウコウエン クニ ッ
 気 ~に悪くある ような者
 運が悪い

5733 a-ne rokokai kusu,
 アネ ロッコカイ クス
 我は・であつた のであつた 故に
 わたしだったので、

5734 pon a-kor yubi
 ボン アコロ ユビ
 小 我・が持つ その兄
 わたしの婚約者

5735 enean※1 kamui
 エネ アン カムイ
 このようにある 神
 あれほど神のようなお方

5736 eneam bito
 エネ アム(←アン) ビト
 このようにある 貴人
 あれほどの貴人から(?)

5737 tane anakne
 タネ アナクネ
 今 は
 もう今は

5738 pirika shiri ※2
 ピリカ シリ
 美しい その様
 よい運から

5739 a-eyaichakte shiri
 アエイイチヤクテ シリ
 我が・そこから 自身を 放つ その様子
 わたしはもう見放されて(?)

5740 okai chiki,
 オカイ チキ
 いる から
 いるから、

5741 sonno a-yayashish
 ソンノ アヤヤシシ(←ア ヤイ アシシ)
 本当に 我は・自身を 罵る
 ほんとうに情けない

5742 keutum a-yaikore.
 ケウトウム アヤイコレ
 気持ち 我は・自分に ~を与える
 気持ちが湧いてきます。

4-9 抵抗むなしく

5743 iyochi un kuru
 イヨチ ウンクル
 イヨチに住む お方
 イヨチびと

5744 kamui ne am be
 カムイ ネ アム(←アン) ベ
 神 のように ある 者
 神のようなお方は

5745 usakor kane
 ウ サコロ カネ
 互い 姉を持つ 状態で
 姉弟ともども

5746 ene hetapne !
 エネ ヘタツネ
 こう かこれはまあ
 あんなにもまあ

5747 chioshiknuka ※3
 チオシクヌカ
 ~ことそこに 目を持つ・(他動詞化語尾)
 わたしたちは

5748 utashba bakno
 ウタシバ バクノ
 相互い ほどに
 お互いに

5749 a-uwekarkar
 ア ウエカカラ
 我らは・互いに ~をする
 親しみ合い(?)

5750 kannaruino
 カンナ ルイノ
 再び+(強意)
 ふたたびまた

5751 unukar kuni p
 ウヌカラ クニ ッ
 互いを見る はずのこと
 会うことになる

5752 a-ne kuni
 アネ クニ
 我ら・である はずだ
 わたしたちだと

5753 a-ramu rokwa,
 アラム ロクワ
 我は・思つ たところが
 思っていたのに、

5754 seennenaksui
 セエンネ ナッスイ
 (否定強調) こう また
 まさかまあ

5755 tap korachi
 タッ コラチ
 この ごとく
 このように

5756 i-kar kuni
 イカラ クニ
 我ら・する はずと
 されるとは(?)

5757 a-ramu rokwa,
 アラム ロクワ
 我は・思つ たところが
 思わなかったのに、

5758 neita okai moshiri
 ネイタ オカイ モシリ
 どこに ある 鳥
 どここの国の

5759 konep kotani
 コネフ コタニ
 (調律、強誦) 何 その村
 どんな村なのか、

5760 Kurorani kotan
 クロラニ コタン
 クロラン 村
 クロラン村とは

※1 eneam kamui/eneam bito「こういう神が/こう
 いう尊いかたが」(金1-66)

※2 pirka shiri「善い運をわらくしてしまつて、人間の死を将来するをしがいふ。」(研918)

※3 shosiknuka「【他動詞】~を慕う、~になつく」(田485)「【1項動詞】なつく」(中116)

5761 tane bakno
タネ バノ
今 まで
今まで

5762 oar arsunoka
オア アラスノカ(←アア スイ ボカ)
全く 一回 さえも
ただの一度も

5763 a-nu eramishkare. ※1
アヌ エラミシカレ
我は・聞く・を知らない
わたしは聞いたことがありません。

5764 Kotan uporoho
コタン ウブソロホ
村 その様
その村に

5765 a-i-ekira
アイエ キラ
人が・我ら・〜と一緒に 逃げる
さらわれて行く(?)

5766 haweokai ko
ハウエオカイ コ
声 ある と
クロナビとが言って(?)はじめて、

5767 ohaine kane
オハイン カネ
おそるべき 状態だ
ああそうか、

5768 neun tapne
ネウン タッネ
どこへ こう
どこへ

5769 tun a-ne wa
トゥン アネ ワ
二人の 我ら・であつて
二人で

5770 baye-an wa
バイエ アン ワ
oman '行く' 複数形・我らが して
行って

5771 isam-an
イサム アン
いない・我らが
しまった

5772 ruwe ne ya,
ルウェ ネ ヤ
事実 である か
のか、

5773 nen ne yakka
ネン ネ ヤッカ
誰 であつても
誰も

5774 erambeutek
p.128 エラムベウテク
知らない
知らない

5775 nankoro ari
ナンコロ アリ
だろう と
だろうと

5776 yainu-an chiki,
ヤインアン チキ
考える・我は なら
思ったら、

5777 boo hene
ボオ ヘネ
もっと でも
なおさら

5778 irushka-an.
イルシカ アン
怒る・我は
腹が立ちます。

5779 Nekon boka newa
ネコン ボカ ネ ワ
どのように さえも なる して
なんとかして

5780 i-bitā-an
イビタ アン
我を・解く・人が
わたしの縄が解かれ

5781 honne-an ita
ホンネ アン イタ
たるむ・我が ときに
縄が緩んだ時に

5782 a-yaikeuorochiwe
アヤイケウ オロオチウエ
我は・自分の 体を 中に 落とす
自分の命を棄て自殺し

5783 kuni batek
クニ バテク
べきと ばかり
ようとばかり

5784 a-ramu kane
アラム カネ
我は・思う 状態だ
思っていて、

5785 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
もう今は

5786 nep ka a-eyaiko-
ネプ カ アエヤイコ
何 も 我は・それを 自身に
何もじっくり考え

5787 shiramse ka
シラムセ(←シラム スイエ) カ
自分の 思い 巡らす も
思い巡らせることも(できずに)、

5788 rushka raibe
ルシカ ライベ
怒る 死者
憤死者(?)

5789 shinne
シンネ
のように
のように

5790 a-shikihī ka ta
ア シキヒ カ タ
我が・その目 上 に
まぶたを

5791 kap utasa,
カ ヲ ウタサ
皮 を交差する
閉じ、

5792 a-okkeu kashi
ア オッケウ カシ
我が・頸 骨 の上
首から上が

5793 chininarbare ※2 kane
チニナラバレ(←チ ニン アラバレ) カネ
自身を 消え 行かせる 状態だ
消えたみたいにながっくり頭を垂れて

5794 mono an-an.
モノ アンアン(←アンアン)
静かに いる・我は
おとなしくしていました。

5795 Neino sui
ネイノ(←ネノ) スイ
そのように また
同じようにまた

5796 a-matakipo
アマタキ ポ
我・の妹+(親称接尾辞)
わたしの義妹

5797 ne yakka
ネ ヤッカ
であつても
も

5798 katun ※3 kane.
カトゥン カネ
ふりをする 状態だ
そんなふりをしていました(?)。

※1 eramishkare は《幌別方言》、《沙流方言》では eramiskari。

※2 原綴 nininarbare。7282行に同文があるので誤記と解釈した。

※3 katu-un <kat'形、状'の所属形・(つよめ辭)> (研W446)、する、ふるまう(金I-61)、「《幌別》ふりをする」(万59-28)

第5章 戦さの火蓋が切られる

5-1 戦さの前兆

- 5799 Ine hunak
イネ フナク
どう どこ
どこに
- 5800 chip hoyubu
チフ ホユブ
船が 走る
船が向かい
- 5801 hunak ta
フナク タ
どこ に
どこに
- 5802 baye-an awa,
バイエ アン アワ
oman '行く' 複数形・我らが たして
行ったところで、
- 5803 neap※1 chip atte※2
ネアブ チフ アツテ
それであったこと 船 を掛ける
あの(?)船の行き先は(?)
- 5804 a-oyamokte.
アオヤモクテ
我は・不審に思う
怪しい。
- 5805 Tambe kusu
タムベ(←タン ベ) クス
このこと 故に
それで
- 5806 panno shikmakaka-an
ボンノ シマカカ アン
すこし 目 パチパチ開ける・我は
わたしは薄目を開き
- 5807 neap ikokanu
ネアブ イコカヌ
それであったもの 物に聞き入る
それを注意深く聞き
- 5808 kisar uheubare
キサラ ウヘウバレ
耳 両方を傾か(hewe複)せる
耳を傾け
- 5809 ikokanu
イコカヌ
くりかえしする 物を聞き入っ
じいっと聞き入っ
- 5810 kane okai.
カネ オカイ
状態である
ていました。
- 5811 Inu-an ko,
イヌアン コ
それを聞く・我がと
聞けば、
- 5812 nekona ne humi
ネコナ ネ フミ
どう である その音
何の音
- 5813 ne nankor'a !?
ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ)
である のだろうか
なのでしょう。
- 5814 I-etok un
イエトク ウン
我の・前方に
わたしの前方の
- 5815 heyashi wa
ヘヤシ(←ヘ ヤアシ) ワ
顔を 陸に向けて立つ所 から
陸の方から
- 5816 tu otonrim
トゥ オトンリム
二つの 鳴動
たくさんの鳴動

- 5817 re otonrim
レ オトンリム
三つの 鳴動
数々の鳴動が
- 5818 otukitara,
p.129 オトウキタラ(←オ トウク イタラ)
尻、下端 が突き出る ~状態が続いている
起こり、
- 5819 moshiri kuttom※3
モシリ クットム
島 咽喉 中
国土の底
- 5820 koturimimse
コトウリミムセ
に向かってゴウゴウ鳴り続ける
へ鳴りとどろく
- 5821 humash awa,
フマシ(←フム アシ) アワ
音立つ たところが
音がしたところ、
- 5822 Kurorani um be
クロラニ ウム(←ウン) ベ
クロラニ に住む 者
クロランの奴は
- 5823 inurokbe
イヌロクベ
ものを聞いたことに
聞くやいなや
- 5824 katune kane
カトウ ネ カネ
常態 である 状態で
ただふつうに
- 5825 nisomap kuni p
ニソマッ クニ ヲ
心配する はずのもの
心配し
- 5826 yaikouyebeker kuni p
ヤイコウエイベケレ クニ ヲ
自分に 物語を語る はずの 者
案ずる
- 5827 newa ne yakne
ネワ ネ ヤクネ
であって である ならば
であるなら
- 5828 kotomkorkaiki,
コトム コロカイキ
似つかわしい けれども・物事を する
いいのに、
- 5829 ibottum konna
イボットウム(←イボロ トウム) コンナ
顔いろを
顔色 の中 (調律)
- 5830 chiwesuye, ※4
チウエスイエ(←チ ウ エ ス イエ)
している 互いにそこを 揺らす
- 5831 koyai babiror-
コヤイバビロロ(←コ ヤイ バビリ, オロ-
について自身の 口中
ひとりごと
- 5832 oitak hawe
オイタク ハウエ
に言う その声
を言う声が
- 5833 ene okai i;
エネ オカイ イ
こう ある こと
こうあるには;
- 5834 'Nekon ne humi
ネコン ネ フミ
どのような である その音
『何の音なのか、
- 5835 iyoserkere !
イヨセレケレ(←イ オシセレケレ)
人をおそれさせる

- 5836 A-kor kotani
アコロ コタニ
我が・持つ その村
わが村に
- 5837 tumunchi oshma
トゥムンチ オシマ
戦さ に入る
戦いが勃発し
- 5838 rorambe oshma
ロルムベ オシマ
戦い に突進する
戦さに突入した
- 5839 kotomno humash !
コトム ノ フマシ(←フム アシ)
ように見える(副詞語尾) 音立つ
らしい感じがする。
- 5840 A-aktonoke newa
アアットノケ ネワ
我が・弟 殿、君 と
わが義弟どのと
- 5841 a-tureshipo
アトゥレシポ
我が・妹(指小辞)
わが妹が
- 5842 mokonnoiba kane
モコンノイバ(←モコロ ノイバ) カネ
眠りが からむ(noye複) 状態で
ぐっすり寝込んで
- 5843 okai raboki
オカイ ラボキ
いる その間
いる間
- 5844 a-eiki※5 wa
アエイキ ワ
人が・それについて 物 する して
に準備されて(?)
- 5845 nuinano
ヌイナノ
隠す(副詞語尾)
こっそり
- 5846 Otasam kotan
オタサム コタン
砂浜 側 村
オタサム村
- 5847 yaun kotan ta
ヤウン コタン タ
陸の 村 に
大陸(内陸?北海道?)の村に
- 5848 yan-an tane
ヤナン(←ヤン アン) タネ
上陸する、行く・人々は 今(もう?)
奴らは上陸し(?)、今は
- 5849 keshto shiran
ケスト シラン(←シリ アン)
毎日 その様ある
毎日その様に(?)
- 5850 ine hunak un
イネフナク(←イネ フナク ウン)
どう どこ へ
どこかに
- 5851 oman wa
オマン ワ
行っ て
行っ て
- 5852 isam-an
イサム アン
いない・我がが
しまった
- 5853 ruwe ne ya,
ルウェ ネ ヤ
事実 である か
のか、
- 5854 a-aki
アアキ
我が・弟
わが弟や

※1 「ne-a-p <それであったこと>」(金I-319)、※2 chip atte《置野茂記》「帆を下ろして停泊した」(教24)
 ※3 『胆振方言 kuttom、沙流方言 kuttum』(研W563)
 ※4 原綴 chiwesuye 「chiwesuye 機嫌を悪くする」(金II-119)、「u-e-suye <相共に、互に・そこ・揺り動かす>」(金I-77)
 ※5 原綴 AeiKiwa。Aoiki wa の誤記か? 参考;「o-i-ki <(そこ)で・ものごとを・する>(そこ)でものごとをする」(田459)

<p>5855 a-tureshipo アトウレシ ポ 我が・妹-(指小辞) わが妹が</p> <p>5856 erambeutek エラムベウテク 知らない 知らない</p> <p>5857 wa okai. Shino ワ オカイ シノ して いる 本当に でいる(?)。まこと</p> <p>5858 apkash tuika ta アプカシ トウイカ タ 歩く 最中 に 俺はこちらへ来る途中でも(?)</p> <p>5859 a-enisomappa awa, ア エ ニソマッパ アワ 我が・それについて 心配する-(複数語尾)したが 心配していたのだが、</p> <p>5860 tumikoroshki ※1 wa トウミ コロシキ ワ 戦さ に 押し立てる して 戦さが始まって</p> <p>5861 ene humashi エネ フマシ(←フム アシ イ) こう 音 立つ こと そのような物音が聞こえる</p> <p>5862 tambe ne ya ? タムベ(←タンベ) ネ ヤ この こと である か のか?</p> <p>5863 Koneptapteta ! コネッ タッ テ タ (調律)何 これ ここに 何ともまあ</p> <p>5864 toatpon wa hetapne ※2 p.130 トアッ ポン ワ ヘタフネ 日 多くある 少なくあつ た かまあこれは 今日にかぎって</p> <p>5865 isam-an イサム アン いない・我が 俺がいない</p> <p>5866 koekarino コエ カリノ 共に そこに 回る よく のを狙って(?)</p> <p>5867 tumisapte wa トウミ サッテ ワ 戦さを出して 戦さを繰り出した</p> <p>5868 humash be ne ya ? フマシ(←フム アシ) ベ ネ ヤ 音 立つ こと である のか その物音なのか?</p> <p>5869 Hushkotoiwano フシコ トイ ワノ 古く(強意)から 昔からずっと</p> <p>5870 kachi aramu カチ アラム (不詳) (不詳)</p> <p>5871 a-more kotan アモレ コタン 人が 静かにさせる 村 平和に治められていた村</p> <p>5872 ne rok be ! ~ ari ネ ロク ベ アリ であつ た のを と であつ た のに』と</p> <p>5873 eashka yaiko- エアシカ ヤイコ- ほんとに 自分に 本当に</p>	<p>5874 uyebeker hawe ウイエベケレ ハウエ 物語る その声 ひとり思い案じて心配する声</p> <p>5875 karikari. カリカリ 回る、動きゆれる+(重複) 聞こえてきます。</p> <p>5876 Keutum otta ケウトウム オッタ(←オロ タ) 心 の所 で 心の中で</p>	<p>5-2 燃えるクロラニ村</p> <p>5877 " chobara chobatata ! " ari チヨバラ チヨバラ タ アリ ざまあみる いい気味だ(強意)と 心の中で(ざまあ見ろ、好い気味だ!)と</p> <p>5878 yainu-an kane ヤイヌ アン カネ 考える・我は 状態で わたしは思いながら</p> <p>5879 baye-an. Aine バイエ アン アイネ 行く(oman複)・我がが そのあげく 行きました。やがて</p> <p>5880 inkar-an ko インカラン(←インカッ アン) コ 眺める・我が と 見れば、</p> <p>5881 otuimashiriwano オトウイマ シリワノ そこから 遠い 空間 から(副詞語尾) 遠くから</p> <p>5882 ikikorkaiki, イキ コロカ イキ 物 する けれども+(添えの助辞) ではあるけれども、</p> <p>5883 inne kotan インネ コタン 大勢の 村 たくさんの戸数がある</p> <p>5884 kotan kurkashi コタン クルカシ 村 その上面 村が</p> <p>5885 koteshnatara. コテシナタラ に対して 反らし続けている ずらっと見えてきました。</p> <p>5886 Kotan kese コタン ケセ 村 しもての端 村のしもて端に</p> <p>5887 wen nui tumi ウエン ヌイトウミ 悪い 炎 戦い 激しい火の手が</p> <p>5888 chikohobuni, チコホブニ 自身 に向かつて 起きあがる(一尻を持ち上げる) あがり、</p> <p>5889 abe tapkop アベ タッコフ 火 丸山 炎の丸い一塊が</p> <p>5890 kamuinish kotor カムイニシ コトロ 神の 天 平坦な場所、斜面 天空に</p> <p>5891 buyatek urar ne ブヤテク ウララ ネ もやもやした 霧 のように もうもうとした霧のように</p> <p>5892 wenubun chise ※3 ne ウエヌブン(←ウエン ウブン) チセ ネ 激しい 吹雪 の家 のように 烈しい吹雪のつむじ風となって</p> <p>5893 chihobunire, チ ホブニ レ 自身を 立ち上 がら せる 立ち昇り、</p> <p>5894 oroneambe オロネアムベ(←オロ ネアンベ) 全く(強め辞) おびただしく</p>
---	---	--

※1 tumikoroshki 《菅野茂訳》「いくさに巻き込む」(教Ⅱ-67)、「戦を始める」(教ⅤⅢ-112)

※2 参考 toatpon wakusu 《知里波説》「日数がないものではないのに今日自分が事を起こそうとする日に来たものだ」(金Ⅲ-293)

※3 wen upun chise 《激しい吹雪 つむじ風》(金Ⅱ-97)

5895 chibatubatu.※1 チバトウバトウ 自身を飛ばしに飛ばす 吹きあげ吹きあげしています。	5913 yak a-ramu, ヤッ アラム と 我が・〜を思う と思ったとたん、	5931 hemanta okai be ヘマンタ オカイ ベ 何 あるもの 何者かを
5896 A-nukar boka アヌカ _ラ ボカ 我が・〜を見る さえも わたしはひと目見だけで	5914 chipshike ka ta チプシケ カ タ 船荷 上 で 甲板に	5932 shitomkote kane, シトムコテ カネ 自分の体に〜を結びつける 状態だ 自分のからだに縛り付けています。
5897 ehayaise※2, エハヤイセ それについて 泣き声を発する(?) 可哀想に思い(?)、	5915 kanakan kuni p カナカン(←カナクアン) クニ ヲ どうある はずのもの 何者かが	5933 Inkar-an ko, インカラン(←インカラアン) コ 眺める・我が と 見ると、
5898 an-esambeka※3 アネサムベカ(←アン エ サムカ 我は・それで 心臓 上 心臓が	5916 chirakatta. チラエカッタ 自身を・下 急に〜行かせる ぱつと飛び降りました。	5934 nekona shikop ネコナ シッコ(←シッコ) オ どんな 目 が付く者 どのような生まれの
5899 murmurse, ムノムルセ 鼓動する どきどきし、	5917 Inkar-an awa, インカラン(←インカラアン) アワ 見る・我が たところが わたしが見ると、	5935 nekona barop utar ネコナ バローパーオ _ラ ヲ _ラ ウタラ どんな 口 が付く者 たち どんな育ちのお方たち
5900 an-eramuka- アネラムカ(←アン エラムカ) 我は・それで その心の 上を 気分が	5918 seenenaksui セエンネ ナッスイ (否定強調)・こう また まさかま	5936 ne nankor'a !? ネ ナンコラ(←ナンコロ ヤ) である だろう か なのでしょう。
5901 kittararke kane. キツタラケ カネ おそれこわがる 状態だ 悪くなりました。	5919 inkar-an kuni インカラン(←インカラアン) クニ 眺める・我が はずと そんなものを見るとは	5937 Okkayo katkor be newa オッカヨ カツコロ ベ ネワ 男 あり方を持つ 者と 男の姿をした者と
5902 Kotan noshkike コタン ノシキケ 村の 真ん中の 所 村中央に	5920 a-ramu roki, アラム ロキ(←ロキ) イ 我は・思っ た ところ 思わなかったのに、	5938 menoko katkor be メノコ カツコロ ベ 女 状態を持つ 者 女の姿をした者—
5903 chibuni tapkop チブニ タッコ 自身を 起こす 孤立した山 ほこんと独立した山が	5921 Otasam un kuru オタサム ウン クル 砂浜 側 に住む お方 オタサムびと	5939 semor borono okai be セモ _ロ ボロノ オカイ ベ (否定・強勢) 大きく ある 者 さほど年長ではない者たちが
5904 chieashi, チエ アシ 自身を そこに 立てる そそり立ち、	5922 pon a-kor yubi ポン アコ _ロ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者が	5940 imeru kusu イメル クス ものの きらめき 故に 後光のせいで
5905 noshke bakno ノシケ バクノ 真ん中 まで 中腹まで	5923 irushka rui be イルシカ ルイ ベ 怒る 激しい 者 猛烈に怒っている	5941 urar kusu ウラ _ラ クス もや 故に もやのせいで
5906 kunne urar クンネ ウラ _ラ 黒い もや 黒いもやが	5924 konepnenekusu, コネ _パ ネ クス (調律・強調)であるもの である 故に ものだから、	5942 pirikano ebittano ピリカノ エビットノ よく 全部 よく全体が
5907 chikonoiba kane. p.131 チコノイバ カネ 自身を 共に 〜を何度もねじる(roye寝) 状態だ たなびいていました。	5925 ibottum konna イボットウム(←イボロトウム) コンナ 顔いろも 顔色の中(調律)	5943 A-nukar boka アヌカ _ラ ボカ 我が・〜を見る さえも わたしは見ることさえ
5908 Tapkopka wa タッコ _カ ワ 孤立した山 接した上 かわ その山頂から	5926 koniunatara コニウナタラ(←コニウエン イタラ) に対し 猛々しい形相を し続ける 恐ろしげに、	5944 eaikap koroka, エアイカ _ッ コロカ できない けれども できないけれど、
5909 nochiu meru re ノチウ メル ネ 星 の光 のように 星のきらめきのように	5927 einkar kuni p エ インカラ クニ ヲ それで物を見る べきもの 二つの目は	5945 santekehe サン テケヘ 出る その手 その手や
5910 kanakan kuni p カナカン(←カナクアン) クニ ヲ どうある はずのもの 何者かが	5928 tu pon nochiu ne トゥ ポン ノチウ ネ 二つの 小さい 星 のように 二つの小さい星のごとく	5946 sanchikirih サン チキリヒ 出る その脚 その脚に
5911 i-kopakksamun イコパクサム ウン 我に・方 近いそばへ わたしたちの方へ	5929 uweutuisam- ウエウトウイサム(←ウ エ ウ トウイサム) 互いを そこに 互いに すぐそば 相ならんで	5947 chiatnaibare p.132 チアツナイバレ られる 縄をかける(←atnayere寝) 縄をかけられ
5912 tuikosamba トウイコサムバ 切れる パツと〜する さつと降りてきた	5930 unte kane, ウン テ カネ はまる させる 状態 はまっています、	5948 bitboshina ビットボシナ ごぎ織機の 小石+(指ハ辞) の縛り方 小石縛りに

※1 chibatubatu「patくどぶ、どひあがる」、patuくとはず、どひ上がらす。反復形は動作の反復してあまたたび起こる意。chi-二 は中相動詞化してくどひあがる意(金II-197)
 ※2 既訳例、wen hayaise「荒き泣き声」(金VI-316)、i-ramhayayse-re!「かわいそうに！」(金III-67)、aeramupo hayaise「壹野茂訳」「あまりにも不憫にみえた。」(教I-152)
 ※3 原綴 Anesamka

5949 a-ekarkarba kane, ア エカラカラバ カネ 人が ~を施す+(複数語尾) 状態で 縛られていて、	5-3 襲撃に憤るクロラニびと	5972 orsaureko オ。サウレ コ 全く 緩い+(否定) まったくとんでもなく
5950 eutamkot kane エ ウトム コツ カネ それで 互いに 真ん中 を連結する 状態で その真ん中をつないで	5956 Kurorani um be クロラニ ウム(←ウン) ベ クロラニ に住む 者 クロラニの奴は	5973 chinuburkasure※4 チ ヌブルカスレ ~こと(名詞句形成接辞) 霊力 越え させる 霊力が
5951 pon a-kor yubi ボン ア コ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者が	5957 homatu rui be ホマトウ ルイ ベ 驚き 激しい もの 非常に驚いたもの	5974 i-yekarkar shiri イエカラカラ(←イ エカラカラ) シリ 我に ~をする その様 われよりありすぎる
5952 ketchimike※1 ケッチミケ 足首 足首	5958 konepekusu コネッ ネ クス (調律、強調)であるもの である 故に だから、	5975 okai be ne ya ? オカイ ベ ネ ヤ いる 者 である のか 奴なのか?
5953 kotba※2 kane コツバ カネ 結びつける 状態で にゆわえつけて	5959 inkan ruwe konna インカン(←インカラ) ルウエ コンナ 眺める その様 が 目を	5976 Sonno mokonno ソノノ モコンノ(←モコロ ノ) 本当に 眠る よく ほんとうに奴はぐっすり
5954 muk karkarse ムク カラカラセ バアソブの根 転がる ムクという蔓草の根がコロコロ転がる	5960 chainatara, チャイナタラ 大きく見開く 大きく開き、	5977 kashba apkor※5 カシバ アプコロ 過ぎる かのよう 眠りこんでいるかのような
5955 shikobayar. シコバヤ 自分を間違えさせる さながらに転がしていました。	5961 ibor kon ruwe イボロ コン(←コロ) ルウエ 顔色 を持つ その様 容貌が	5978 katun ruwe カトウン ルウエ 態度 の様 格好をして
	5962 pirika rok be, ピリカ ロク ベ 美しかった 者 あんなにも美しかったのに、	5979 okai. Rabokita オカイ ラボキタ ある その間に いた。その間に
	5963 kor wemburi コロ ウエム ブリ(←ウエン ブリ) 持つ 激しい 感情 その怒りを	5980 menoko utar メノコ ウタラ 女性 たち 女たちを
	5964 enantuikashi エ ナントウイカシ でもって 顔 面 顔中	5981 a-ekira awa, ア エ キラ アワ 我は・~と一緒に 逃げる たところが 俺はさらって来たのだったが(?)
	5965 chihobunire, チ ホブニ レ られる 立ち上から せる にみなぎらせ、	5982 oroyachiki オロヤチキ(←オ。オヤ チキ) そこ 他の ~すれば 意外にも、
	5966 "Achikar ta! アチカラ タ きたならしい(感嘆、強調の接尾辞) 「おの小頼千万、	5983 shimokore orowa シ モコレ オロワ 自分を眠らせる それから 奴は狸寝入りしていて、それから
	5967 Ayakanna ta! アヤカナ タ けがらわしい! 小生意気な	5984 i-okakura hine イ オカクイラ ヒネ 我の・後 こっそり追う して ひそかに俺の後を追ってきて
	5968 Otasam um be オタサム ウム ベ 砂浜 側 に住む 奴 オタサムの野郎	5985 nep ne yakka ネッ ネ ヤッカ 何であつても 何もかも
	5969 toyainu sani※3 トヤイヌ(←トイ アイヌ) サニ 腐れ 男 の血筋 くされアイヌの血統	5986 nu orowa, ヌ オロワ 聞く それから 聞いてから、
	5970 wenainu sani! ウエナイヌ(←ウエン アイヌ) サニ 悪い 人間 の血統 悪人の血統めが	5987 a-yaikomorep アヤイコモレッ 我らが 自身と共に 静かにするもの われらが静かに守ってきた
	5971 okai wa namne オカイ ワ ナムネ 居 て さえも尚 居るにもことかいて、	5988 Kuroran kotan ne※6 クロラン コタン クロラン 村 クロラン村

※1 「ketchimuyehi←ker-ci-muye-hi<沓を・我ら・結ぶ・所>《沙流》足首」(人18)。「ketchimuyke …ker-ci-muy(e)-hi-ke<靴・される・まとめてしぼる・ところ・ところ>~の足首」(田298)。「ケッチミイケ ふくらはぎ」(音225)

※2 kote <~に~を結びつける、~を~にゆわえつける>の複数形(?)

※3 toyainu sani/wenainu sani《萱野茂訳》「くさった者/悪人の血筋」(教VI-12)、『切替英雄訳』「汚い人間の末裔/神の真寵なき人の末裔の」(教32-165)

※4 「chi-nupurkasu-re<自分を・えらすぎ・さす>えらすぎる」。(金I-190)、『i-ekarkar の i- はくわしたしよりも』の意(金I-288)『萱野茂訳』「私の呪術をはるかに越える」(教26-124)

※5 apkor=日高方言 apekor。「ようである」(金II-189)、『[a pekorの短縮形]あたかも~するかのよう』(切-247)

※6 このneは次頁冒頭にnerokwaと重出する。

5989 ne rokwa p.133 ネ ロクワ であったところ であったのに、	6006 kotba ruwe コツバ ルウエ 結ぶ その様 結びつけるさまが	6023 yak a-ramu, ヤッ アラム と 我が〜を思う とわたしが思ったら、
5990 kotametaye コタメタイエ(←コ タムエタイエ) に向かって刀 を引き抜く 攻撃するにも	6007 ene okai i エネ オカイ イ こう ある こと このようなこと	6024 emush kishma エムシ キシマ 太刀 を握る 奴の太刀を握る
5991 orsaureko オ サウレ コ 全く緩い+(否定) まったくとんでもなく	6008 tambe ne ya ? タムベ(←タン ベ) ネ ヤ このこと である か なのか?	6025 tekehe テケヘ その手 手や
5992 ki shiri キ シリ する その様 するさまが	6009 nekona hene ネコナ ヘネ どのように ても たとえどのように	6026 amunin ※5 kashi アムニン カシ 腕 の上 前腕や
5993 ene okai i エネ オカイ イ こう ある こと このようなこと	6010 katkor kuni p カツコ クニ プ 振舞う べき 者 お前が振る舞った	6027 tekukot kashi テクウコツ カシ 手首 の上 手首を
5994 tambe ne ya ? タムベ(←タン ベ) ネ ヤ このこと である か なのか?	6011 e-ne apkusu エネ アックス お前であった としても にせよ、	6028 pon a-kor yubi ポン アコ ユビ 小 我が持つ その兄 わたしの婚約者は
5995 Eebakita エエバキタ その上に さらに	6012 pon shiknubo ポン シクヌボ 小さな 生かすこと-(指小辞) 少しでも生かし	6029 yupke kishma ※6 ユプケ キシマ 強く つかむ 強くつかみ
5996 konep erammayaisep コネフ エラムマヤイセ(←エラム アイアイセ) フ (語勢) 何事 ~に関して心 泣き声発する 者 何事にも情がうつるのが	6013 pon tusabo ポントウサボ 小さき 生+(指小辞) 少しでも助けては	6030 toiko kishma ※7 kane, トイコ キシマ カネ ひどく 握る 状態で ぎっちり握って、
5997 tapne ainu newa タプネ アイヌ ネ ワ これのように 人間 であって このとおり人間であるのに、	6014 e-ki nankor wa ! エ キ ナンコ ワ お前は する であろう おかない、殺してしまうぞ!]	6031 tan rui itak タン ルイ イタク この 激しい 言葉 この怒号、
5998 nep e-iy-okamkir be ※1 ネプ エイヨオカムキリ(←エイオオカムキリ) ベ 何か それについて 物を あずかり知る もの 何か汝がおれにわざと	6015 ari itak kane, アリ イタク カネ と 言う 状態だ と言って、	6032 irushka itak イルシカ イタク 怒る 言葉 憤怒
5999 a-aki hene ア アキ ヘネ 我が その弟 ても わが弟と	6016 temka ※3 konna テムカ コンナ 腕 上-(助辞) 彼の手元が	6033 ehautum konna エ ハウトウム コンナ それで 声中 が の大声が
6000 a-tureshipo アトゥレシポ 我が・妹・(指小辞) わが妹	6017 barkosanu, バラ コサヌ パッと 急に~する ピカッと光り、	p.134 6034 tununitara. トゥヌニタラ(←トゥントウン イタラ) 澄んだ高い音 ~鳴り続け 響きわたりました。
6001 newa kusu ネワ クス であった から であったから(?)	6018 yupke tamkur ユプケ タムクル 激しい 太刀 影 激しい太刀が	
6002 chikosomokur- チコソモクル ~こと に対して+(否定) あえて	6019 tatushbe kunne タトゥシベ(←タツウシ ベ) クンネ 樺皮 がついているもの のように たいまつのように	
6003 yaikatanuno ヤイカタヌノ 遠慮する、つつむ+(副詞語尾) おそれはばからず	6020 pon a-kor yubi ポン アコ ユビ 小 我が持つ その兄 わたしの婚約者	
6004 kamui a-ne rokwa ※2 カムイ アネ ロクワ 神の 我・である たのに われは神だから	6021 koterkere コ テレケレ に向かって 跳ばす に跳ばされ	
6005 kesubihhi ケスビヒ(←ケスフ+所屬形語尾) そのかかと 奴のかかとに	6022 koekomomse ※4 コ エ コモムセ に向かって そこで 猫背のように曲がる 曲線を描いて跳んできた(?)	

※1 「eiyokaamkirbe お身がさどつくれる(金Ⅱ-125)、oka-amkir<あと・知る>意識する(金Ⅱ-371)、あずかり知る(金Ⅰ-389)、会得する、理解する…(金Ⅱ-128)、oka は後という意味の okaか、存在する意味の oka か(研W358)」「okamkir【副詞】わざと、意図的に。(田460)

※2 「rok-wa は a-wa に同じ、~たところ、~たればの意。rok は a の複数、詞曲語の atomte itak(美しいふ詞)。(研W290)

※3 temka「腕の上(金Ⅰ-194)、手元(金Ⅱ-325)」

※4 koekomomse は reuke することと筆録者の自註である。…(金Ⅲ-229)《書野茂記》「さつと振られた。(教Ⅰ-4 130)、撞ってしまつた。(教Ⅱ-46)」

※5 原綴 amun

※6 原綴 keshma

※7 原綴 keshma

5-4 神々への口上

6035 " Honebeta!
ホネベタ(一ホ ネブヘタ)
まあ 何 か これ
「何をぬかすか!

6036 Otusui ye yan!
オトウスイ イエ ヤン
幾つも重なる二回 言い なさい
何度でも言え!

6037 Oresui ye yan!
オレスイ イエ ヤン
幾つも重なる三回 言い なさい
幾度でも言え!

6038 A-nu kusu ne na!
アヌ クス ネ ナ
我は・聞く つもり である ぞ
聞いてやろうぞ。

6039 Kurorani um be
クローニ ウム(一ウン) ベ
クローニ に住む 奴
クローニびと

6040 toishirumbe ※1
トイシルムベ(一トイ シルム ベ)
墓土の つまらぬ 奴
腐れたつまらん奴

6041 wenshirumbe
ウエンシルムベ(一ウエン シルム ベ)
悪い卑しい 奴

愚かな卑しい奴

6042 ene okai be
エネ オカイ ベ
そのように ある 者
そんな奴が

6043 koohainebo ※2
コオハイネボ
コオハインボ
対したただの、空の(挿入音)である 者
生意気にも

6044 kamui ari
カムイ アリ
神 と
神と

6045 yaiborse kane,
ヤイボロセ カネ
自身を・〜と名付ける 状態で
自称して

6046 kamui buri
カムイ ブリ
神の 習慣
神の風習

6047 kamui irenka
カムイ イレンカ
神の おきて
神の掟

6048 pirika irenka
ピリカ イレンカ
立派な 規範
立派な決まりごとが

6049 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなこと

6050 ne ruwe hean?
ネ ルウェ ヘアン
である その事 なの
なのか?

6051 Kamui hene
カムイ ヘネ
神 でも
神でも

6052 nep hene
ネブ ヘネ
何 でも
何でも

6053 katuren kai ne
カトゥ レンカイ ネ
その有様 意図 として
なりゆき次第で

6054 shukupkuru yainu
シュクフクル ヤイヌ
若い人 思い
若者の考え

6055 nokankuru keutum
ノカンクル ケウトウム
幼い人 精神
こどもの気持ちというものは

6056 ene okai ne kusu,
エネ オカイ ネ クス
こう ある である 故に
そういうものだから、

6057 ainu orun
アイヌ オルン
人間 の中へ
人間へ

6058 iyoshiknuka ※3
イヨシクヌカ(一イ オ シクヌカ)
人に 目 を持つ+(他動詞化語尾)

見とれて

6059 iyoshikote
イヨシコテ(一イ オ シク コテ)
人に 目 結びつける

惚れ

6060 e-ki a yakun,
エキ ア ヤクン
汝が・した のならば
たのなら、

6061 ikka yainu
イクカ ヤイヌ
盗む 考え
盗み出す考え

6062 somoneno
ソモネノ
(否定)である(副詞語尾)
ではなく

6063 e-ye ka eaikap
エイエ カ エアイカッ
汝は・言う も それについて できない
話すこともできなかった

6064 ruwe hean?
ルウェ ヘアン
その事 なの
のか?

6065 Konep ikkewe
コネッ イッケウエ
(語勢)何 その理由
どんな理由

6066 eonebare
エオネバレ
それを 理由にして
にもとづいて、

6067 hushkotoiwano
フシコトイ ワノ
古く(強意) から
昔からずっと

6068 kamui orbakno
カムイ オロバクノ
神 内にまで
神うちにまで

6069 tu makanshiri wano
トゥマカン シリ ワノ
二 奥の、過ぎ去った 空間、時間 から
幾世代も前の大昔から

6070 shinrit kashi
シンリツ カシ
祖先 の上
祖先の素性が

6071 a-eraman kuni p
アエラマン クニッ
人が・知る はずのもの
知られている

6072 Otasam kotan
p.135
オタサム コタン
砂浜 側 村
オタサム村

6073 ne awa,
ネ アワ
であつ たが
であったのに、

6074 annoshki
アンノシキ
夜 真ん中
真夜中の

6075 kamui hene
カムイ ヘネ
神 でも
神々も

6076 ainu hene
アイヌ ヘネ
人 でも
人間も

6077 sonno mokonno
ソンノ モコンノ(一モココ ノ)
本当に 眠る よく
すっかり熟睡している

6078 bakita ※4
バキタ(一バクイタ)
までの 時に
ちょうどその頃合いに

6079 chise upsoroho
チセ ウッソロホ
家 その懐
家の奥深くに

6080 e-ikura kane
エイクラ カネ
汝が・忍び寄る 状態で
お前が忍び入って

6081 shiknu ainu
シクヌ アイヌ
生きる 人間
生きている人

6082 utar e-eikka
ウタラ エエイッカ
たち 汝が・そこで盗み出す
たちをかどわかし、

6083 e-ekira
エキラ
汝は・〜と一緒に 逃げる
さらって行った—

6084 taban buri
タババン(一タバアン) ブリ
こう ある 行状
こんなやり方は

6085 sonno kamui buri
ソンノ カムイ ブリ
本当の 神々の 慣習
まことの神々の習慣では

6086 ene okai i
エネ オカイ イ
こう ある こと
このようなことを

6087 ne wakusu ※5
ネ ワクス
である ての故に
できるものではないのに(?)、

※1「shir-un-pe」は日常の罵言で原義は「toi<土>も墓土であるよう shir<地>も墓地の意味の悪称(金I-177)、いやしい、わるい。」

悪罵の語。この shir<土地>は墓場の土を意味するいやがらせの語、toi<土>も同義(金II-92)。

※2「koohane-po」沙流方言には koohana といい語にあたる。po は指小辭。見くたした語。こんなもの、このやうな(つらぬもの!) (研706)、つまらぬ者(研840)、笑止千万にも、小しやくにも、なまいきに(金II-187)、「笑止や、笑止にも」(語法)、《菅野茂訳》「からこしやくにも」(教26-153)

※3「o-shk-nuka<そこ・目・置く>見とれる、恋愛する。nu は多分 unu 置く、-ka 他動詞化語尾」(金II-120)

※4 原綴 bakikita

※5 ne wakusu「<である て・の故に>…できるものではないのに」(金I-142)

<p>6088 kashi eoniwen カシ エオニウエン 上 (不詳) (不詳)</p> <p>6089 kurkashike クルカシケ その上面一帯 その上</p> <p>6090 arwen itak アウエン イタク 全く悪い 言葉 とんでもない悪口</p> <p>6091 e-i-yekarkar ※1 hawe エイエカラカラ(←エイエカラカラ) ハウエ 汝が我にそれをする その声 をわれに言うことが</p> <p>6092 ene okai i エネ オカイ イ こう ある こと このようなこと</p> <p>6093 tambe ne ya ? タムベ(←タンベ) ネ ヤ このこと である か なのか?</p> <p>6094 Ponso hene ボンソ ヘネ 少し でも いささかでも</p> <p>6095 chikoyayababu チコヤヤバブ(←チコヤイアバブ) ~のこと~に 自身 悔いる 詫びを</p> <p>6096 e-ki a yakne, エキ ア ヤクネ 汝がした ならば お前が入れるならば、</p> <p>6097 echi-tusare-an kuni エチトウサレアン クニ 汝ら・を治る させる・我は べき お前らを助けてやろうと</p> <p>6098 a-ramu awa, アラム アワ 我は・思う したが 思ったが、</p> <p>6099 neita bakno ネイタ バノ どこ までも どこまでも</p> <p>6100 tapne kane タプネ カネ このような 状態で このような</p> <p>6101 irenka kor be イレンカ コロ ベ 了見 を持つ 者 了見で</p> <p>6102 ene hawe エネ ハウエ こう 言う そう言う</p> <p>6103 ne a yakne ネ ア ヤクネ であった ならば のであったなら、</p> <p>6104 ene a-kari エネ アカリ(←ア カライ) こう 我が・作る こと どうすることも</p> <p>6105 ene a-yei isam. エネ アイエイ イサム こう 我が・言う こと 無い 何とも 言いようもない。</p>	<p>6106 E-akihi newa エ アキヒ ネワ 汝・の弟 と お前の弟 と</p> <p>6107 e-tureshi hemem エトウレシ ヘメモ 汝・の妹 でも 妹も</p> <p>6108 nep e-i-y-okamkir be ネフ エイヨオカムキリ(←エイオオカムキリ)ベ 何か 汝が・我に・あずかり知る もの</p> <p>6109 somo ne yakka, ソモ ネ ヤッカ (否定) である しても でなくても でなくても</p> <p>6110 a-mut chimuttam アムツ チムツタム 我が・佩く 我ら 帯びる 刀 わが・佩く太刀の</p> <p>6111 notak kurkashi ノタク クルカシ 刃さき の上 刃先の上に</p> <p>6112 a-turare ※2 na. アトウラ レ ナ 我は・同伴させる ぞ 身を投げさせるぞ。</p> <p>6113 Tumi montum ※3 ne トウミ モントウム ネ 戦いの 手力 として それを戦さの戦力として</p> <p>6114 wembe montum ne ウエムベ(←ウエンベ) モントウム ネ 悪い こと 手力 として 戦いのちからに</p> <p>6115 kor wa コロ ワ 持つ して して、</p> <p>6116 chikomoimoike チ コ モイモイケ ことを向かって 動く かかって</p> <p>6117 i-y-ekarkar イイエカラカラ(←イ エカラカラ) 我に・をする くる</p> <p>6118 kunak ramu yan! クナク(←クン ヤク) ラム ヤン べきであると 思い なさい がしい。</p> <p>6119 Ikanebeka ※4 イカネベカ(←イキア ネベカ) 決して~するなかれ もしや</p> <p>6120 toyainu sani トヤイス(←トイ アイヌ) サニ 腐った 人間 の血筋 くされアイヌの血統</p> <p>6121 wenainu sani ウエナイス(←ウエン アイヌ) サニ 悪い 人間 の末裔 悪人血統の</p> <p>6122 Otasam un kuru オタ サム ウン クル 砂浜 側 に住む お方 オタサムひとに</p> <p>6123 anrabiki e-kari アンラボキ(←アララボキ) エ カリ 全く下 汝が・回る お前が完敗した</p>	<p>6124 yak anakne, ヤク アナクネ(←アン ヤクネ) と ある ならば となったならば、</p> <p>6125 eani eashtapne エアニ エアシタプネ お前 (不詳) お前に</p> <p>6126 shukup tuikata シュクフ トウイカタ 生涯 の間</p> <p>6127 shukup nuraukot シュクフ スラウコツ 生涯の 恥 生き恥を</p> <p>6128 e-kore-an kush ne エコレアン クス ネ 汝に・与える・我が つもり である 汝に我が与えてやろう 汝に我が与えてやろう</p> <p>6129 ruwe tabani" ari ルウエ タバン(←タラ アン) アリ 事実 これこのとおりある と ぞ』と</p> <p>6130 itak yak a-ramu, イタク ヤク アラム 言う と 我が・思う 言ったかとわたしが思ったとたん、</p> <p>6131 kanak okai be カナク オカイ ベ どんな いる 者 その何者かは</p> <p>6132 shineikinne シネイキンネ(←シネ イキリネ) 一列に 皆いっせいに</p> <p>6133 tui rukhumi トウイ ルクフミ 切れた 断片、破片 ちぎれた断片を</p> <p>6134 chiusatchari チウサツ チャリ された 左右両方へを散らす 左右へぱっと散らし、</p> <p>6135 sonno ohaunotcharke ソノノ オハウ ノツ チャラク 本当に 汁の実をちらす まさに汁の実をまき散らした</p> <p>6136 ekannayukar, エカンナ ユカラ それについて 重ねて再び まねする みたいに飛び散りました。</p>
--	---	---

※1 原綴 Eiyekar で改行、次行冒頭に -kar を補った。

※2 notak kurkashi 続く常套句はワカルバでは a-yaitaraye が多い(研W313)。金成マツではこの常套句が ayaiturare。「身を投げてむ。」(研776)となる。

※3 原綴 momtum

※4 5行下の yak にかかり、ikanebeka ~yakne <もしや~ならば>となる。《萱野茂訳》「もしものこと」(教 I-10C)

5-5 鑄迫り合い

- 6137 Semkorachi
セムコラチ
そのような
それと同時に
- 6138 yayomap kamui ※1
ヤヨマツ(←ヤイ オマツ) カムイ
自身を愛する 神
- 6139 inotoorke
イノトロケ(←イノトウ オロケ)
生きている霊の所
の魂の
- 6140 hobumba humi
ホブムバ フミ
起き上がる(←hopuni複) その音
出立つする音が
- 6141 keurototke ※2
ケウ ロトツケ
ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾)
ゴロゴロと鳴りひびく
- 6142 humash awa,
フマシ(←フム アシ) アワ
音 立つ たところが
音がしたら、
- 6143 Kurorani um be
クローニ ウム(←ウン) ベ
クローニ に住む 奴
クローニびとは
- 6144 eashka sonno
エアシカ ソンノ
本当に 真に
それこそまことに
- 6145 homaturuibap
ホマトウ ルイバ フ
驚き 激しい+(複数語尾) もの
びっくりし
- 6146 irushkaruibap
イルシカ ルイバ フ
憤怒 激しい+(複数語尾) もの
激怒した
- 6147 konepnekusu
コネッ ネ クス
(調律、強調)であるもの である 政に
ものだから、
- 6148 shiktum konna
シクトム コンナ
目 色 (調律)
目の色を
- 6149 barse barse,
バラセ バラセ
炎を上げて燃える+(重複)
らんらんと光らせ、
- 6150 shietuina
シエトウ ウイナ
自分の 鼻をつかむ
自分の鼻をつかみ
- 6151 shibaruina kane,
シバラ ウイナ カネ、
自分の 口をつかむ 状態で
口をおさえて驚く仕事をしながら、
- 6152 " Sonno hetapne!
ソンノ ヘタッネ
本当 かこれほま
『本当にまあ』
- 6153 Otasam um be!
オタサム ウム(←ウン) ベ
砂浜 側 に住む 奴
オタサムの野郎め。

- 6154 Atanan ainu ari
アタナン アイヌ アリ
普通の 人間 と
ただありきたりの人間だと
- 6155 yainu-an kusu
ヤイヌ アン クス
考える・我は 故に
と考えていたから、
- 6156 a-rara kusu
アララ クス
我は・見くびる 政に
おれはなめてかかって
- 6157 iki-an rokwa,
イキアン ロクワ
物する・我は たところが
ああしたのだが、
- 6158 oyoyobo ta!
オヨヨボ タ
忌々しい(指小辞) (感嘆)
忌々しい!
- 6159 a-ak tonoke
アアットノケ
我が・弟 殿、君
わが義弟どのは
- 6160 shisak rametok ne,
シサク ラメトク ネ
滅多にいない 勇者 である
たくいまれなる勇者であり、
- 6161 a-tureshipo hene
アトウレシポ ヘネ
我が・妹+(指小辞) でも
わが妹も
- 6162 shisak nuburmat
シサク スブルマツ
真に無い 巫術に長けた 女性
類いまれな巫女
- 6163 ituren nuburmat
イトウレン スブルマツ
物が悪く 霊力のある 女性
滅多にいない巫女
- 6164 ne rok be,
ネ ロクベ
であったもの
であったのに、
- 6165 ohanakusu
オハナクス
まさか~でもあろうか
まさか
- 6166 ear shirkush ※3 ne
エアラ シルクシ ネ
(?) 辺りを通る(?)
(?)
- 6167 chiattamnere
チアツタムネレ(←チ アラタムネレ)
~のこと 一 刀 にする
一 刀 のもとに斬り殺
- 6168 a-ekarkar wa
アエカラカラ ワ
人が~をする して
されて
- 6169 ene shiriki i
エネ シリキイ(←シリキヒ)
このような その様 のこと
しまったのでは
- 6170 tambe ne ya?"
タムベ(←タンベ) ネ ヤ
このこと である か
あるまいな?!
- 6171 ari itak kane,
アリ イタク カネ
と 言う 状態で
と言って、

- 6172 " Nekona hene
ネコナ ヘネ
どうに でも
『どのようでも』
- 6173 katkor kuni p
カツコロ クニ ヲ
振る舞う べき もの
好き勝手に振舞う
- 6174 e-ne apkusu!" ari
エネ アックス アリ
汝・であつ たとしても と
お前だとて』と
- 6175 ishish hau konna
イシシ ハウ コンナ
罵り憤る 声 (調律)
怒号する声が
- 6176 yaknatara kane,
ヤクナタラ カネ
大木を折るように響く 状態で
砕けつづれるように響いてきて、
- 6177 utashba bakno
ウタシバ バノ
相互い ほどに
お互いに
- 6178 ramkobashtep
ラムコバシテフ
心をそこへ 走らせるもの
太刀の光を
- 6179 chup chise ne
チュプチセ ネ
月の 家 のように
月の暈のように
- 6180 shienkaotte
シエンカオツテ
自分 上 たくさん居させる
頭上にとりまかせて
- 6181 ukotamsuiba,
ウコタムスイバ
互いに 刀を振る(suye複)
太刀を振り合わせ、
- 6182 utashba bakno
ウタシバ バノ
相互い ほどに
かわるがわる
- 6183 yupkesuibap ※
ユプケスイバフ
激しく振る(suye複) もの
激しく振った
- 6184 tamreuboki
タム レウボキ
刀 の下
刀の下に
- 6185 tunash ram ka ta
トゥナシラム カ タ
素早い 心 上 で
すばやく
- 6186 kohebokiba,
コヘボキバ
に 頭を下げる+(複数形語尾)
身をかがめ、
- 6187 rera mau ne
レラ マウ ネ
風 気 になる
風のように
- 6188 arutasare,
アルタサレ(←アラ ウタサレ)
全く互いと交代させる
入れ替わり、
- 6189 ouse tam ukere humi
オウセ タム ウケレ フミ
ただ~だけ 刀 互いにさわる その音
ただ刀が触れ合う音だけが

※1c | yay-omap <自身・愛す>、我身をなさげなく思ふ、くちをしがる。yai-omap kamui とは、むさむさ殺された死霊があゝなげなし、くちをしとなげきつゝ天に昇り行きたる意。(研626) うらむ神々、しまった! という神々(金1-194)

※2 | 鳴動する(脚注: 神々が死ぬ時、その身から生霊が離れて昇天する時の音が雷鳴を立てると考えられている。)。(金1-195)

※3 | shirkush, シルクシ, 立ち寄り行く.v.t. to pass by. As: -shirkush range, in passing by. (B467), aunchise un/shirkush noine/iramu-an na. 「われらが家へ/立ち寄るらしく/思われるよ。」(金1-340)

<p>6190 orone kuni p オロネ クニッ 甚だである べきこと おびただしく</p> <p>6191 mayunitara マユニタラ(←マユン イタラ) 金属の音がする し続ける カチンカチン</p> <p>6192 konainatara. コナイナタラ 共に 金属の触れ合う音が続けている チャリンチャリンと響いています。</p> <p>6193 Neikorachi※1 ネイコラチ その所と同様に それと同時に</p> <p>6194 yaunkuru turembe ヤウンクル トウレムベ(←トウレン ベ) 陸の人 憑く物 本島人の憑き物と</p> <p>6195 anun turembe ※2 アヌン トウレムベ(←トウレン ベ) 他所の人 憑く物 見知らぬ人の憑き物が</p> <p>6196 kamuinish kashi カムイニシ カシ 神空 の上 天空上</p> <p>6197 kohumbushba, コフムブシバ(←コフム エ ブシバ) に向かって音が 頭 噴火する(pusu複) に音を爆発させ、</p> <p>6198 uhumnikoro ウフムニコロ 互いの音 襲 互いの音が</p> <p>6199 eokokba, エオコクバ(←エ オクオクバ) そこにひっかかる+(重複)+(複数語尾) からみ合い、</p> <p>6200 sarekot※3 mawe サレコツ(←サラ エ コツ) マウエ 尾 についている その気 尾のあるような</p> <p>6201 tu shupne rera トゥ シュブネ レラ 二つの 巻いている 風 多くの竜巻</p> <p>6202 re shupne rera レ シュブネ レラ 三つの 巻いている 風 幾つもの旋風が</p> <p>6203 taban ponchip タバ(←タフ アン) ポン チフ 今ここに ある 小さい 舟 この小舟</p> <p>6204 ne yakka, chiouse- ネ ヤッカ チオウセ であっても (不詳) にも</p> <p>6205 kohobumba bumba, コホブムバ ブムバ に向かって 起きあがる(風を持ち上げる=puni 複) 吹きつけ吹き上げ(?),</p> <p>6206 chishisuyere チシスイエレ される自分を 揺すらせ 揺すられ、</p> <p>6207 chikibonewa チキボネワ 我ら・する+(指小辞)であって 今にも</p>	<p>6208 atui asam アトウイ アサム 海 底 海の底</p> <p>6209 a-i-y-ekirba anke p.138 アイエキルバ(←アイ エ キルバ) アンケ 人が我らをそこに向ける 今にも~しそうだ にひっくり返されそうになり、</p> <p>6210 a-konram konna アコンラムコンナ(←ア コロラム コンナ) 我が・持つ 心+(調律) わたしはすっかり心</p> <p>6211 chupnatara. チュブナタラ すぼまる ~している 細くなりました。</p> <p>6212 Rametok utar ラメック ウタラ 胆力ある 者たち 勇者たちの</p> <p>6213 shinka hawe シンカ ハウエ 雄叫び の声 雄叫びの声</p> <p>6214 humse hawe フムセ ハウエ フムという その声 フムツという気合いの音が</p> <p>6215 chiyasare※4 チウタサレ られる 交又させる 飛び交い、</p> <p>6216 makan ne ko マカン ネ コ どうか なる と ある時は</p> <p>6217 kamuinishka カムイニシカ 神(美稱)雲上 天空上</p> <p>6218 chikohobumba チコホブムバ 自身をに 起きあがる(puni 複) に飛び上がり、</p> <p>6219 makan ne ko マカン ネ コ どうか なる と 時には</p> <p>6220 chip-upsot ta チフ ウツソツ(←ウツソロ) タ 船 懐 に 船内に</p> <p>6221 chiranarapte kane チラナラッテ カネ される 下方に 落ちる 状態で 落ちてきて</p> <p>6222 utamekoiki. ウタメコイキ(←ウ タム エ コイキ) 互いに 刃で 撃つ 刃で斬り合いました。</p> <p>6223 Kip ne koroka キッ ネ コロカ ~をするもの だけれど しかし、</p> <p>6224 oar oar オアラ オアラ 全く 全く まったくもって</p> <p>6225 ponnoka ボンノカ 少しも 少しも</p>	<p>6226 utamkerere ウタムケレレ 互いに 刃に 触れさせる 切っ先を触れ合わせも</p> <p>6227 utameokte ウタメオクテ(←ウ タム エ オクテ) 互いに 刃を 引っから せる 討ち合わせることも</p> <p>6228 somoki kotomno, ソモキ コトムノ (否定)する らしく しないみたい</p> <p>6229 tap eashiri タッ エアシリ 今 初めて それこそ</p> <p>6230 sonno ubak rametok ソンノ ウバク ラメック 本当に 同じ程度の 勇者 優劣つけがたい勇士が</p> <p>6231 utasaroshki p ウタサ ロシキッ 互いに交代して、向かって 立つ こと 対決して戦っている</p> <p>6232 konep ne kusu コネッ ネ クス (調律、強詠)であるもの である 故に ものだから、</p> <p>6233 utuiba sakno ウトウイバ サクノ 互いにを斬る(←tuye複) 無しに 斬り合い無しの</p> <p>6234 ubiro sakno ウビロ サクノ 互いに 傷つける 無しに 傷つけ合うこともない</p> <p>6235 an ukoiki アン ウコイキ ある 互いに物を する この争いが</p> <p>6236 moshiri kuttom モシリ クットム 島 咽喉 中 国土の底</p> <p>6237 koturimimse kane コトウリミムセ カネ に向かって ゴウゴウ鳴り続ける 状態で へ鳴りとどろく</p> <p>6238 kane humash. カネ フマシ(←フム アシ) 状態で 音 立つ 音がしました。</p>
--	---	---

※1 neikorachi「それとともに(研W327)、それにつれて(研W460)、たちまちに(研W488)」「…korachi は、日常口語ではく~と同様に>の意だが、雅語の中で nehi korachi と熟する時は<それと同時に>の意を表す」(語法)

※2 原綴 turambe ※3「脚注:余韻のある意」(金研-239)

※4 chiyasare「(=utasa<交又す、かえし合う、相交る>一所にでなくそちこちばらばらにきこえる『平賀サタモ説』」(金研V-212)

5-6 神への祈り

- 8239 Konepkeukata!
コネッ ケウ カタ
「調半」何 体 上「感動」
おおあわれ、
- 8240 konepkashita!
コネッ カシ タ
「調半」何 上「感動」
ああなさけない。
- 8241 A-wenrenkabi※1
ア ウエン レンカビ
我が・悪い 所存
わたしの行い
- 8242 okai kusu,
オカイ クス
ある 故に
のせいで、
- 8243 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
どうとう
- 8244 otumioshma shiri
オトウミ オシマ シリ
それが原因で 戦いが突発した その様
戦いの元となったこと
- 8245 orsaureko
オ サウレ コ
全く 緩い(否定)
まったくとんでもない
- 8246 okai chiki,
オカイ チキ
いる から
ことになったから、
- 8247 nekona shino
ネコナ シノ
どう 本当に
何をどう本当に
- 8248 iki-an chiki
イキ アン チキ
物事をする・我が なら
わたしがしたら
- 8249 pirika nankor
ピリカ ナンコラ(←ナンコ。ヤ)
いい だろう か
いいのかしら。
- 8250 Tap korachi
タッ コラチ
この ごとく
このように
- 8251 i-shinashina-an
イシナシナ アン
我を・縛り縛りする・人々が
縛られ
- 8252 i-tubetube-an ※2
イトゥベトゥベ アン
我を・縛る、結ぶ、ゆわく+(重複)・人々が
ゆわかれて
- 8253 somoki yakne,
ソモキ ヤクネ
(否定) する ならば
いないならば、
- 8254 nekona hene
p.139 ネコナ ヘネ
どのように ても
たとえどのように
- 8255 i-kichi-an wa
イキチ アン ワ
我を・ki'する'複数形・人々が して
わたしがされていても
- 8256 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者を

- 6257 kashichibiki
カシチ オビキ
その上 ~こと そこに救援する
わたしが助けに駆け
- 6258 a-ekarkar be
ア エカラカラ ベ
我が・~をする もの
つけるの
- 6259 ne koroka,
ネ コロカ
だ けれど
のだけれど、
- 6260 sonemakan
ソネ マカン
本当に どのように
ほんとうに
- 6261 ikkewe ta
イクケウエ タ
原因 で
根元において
- 6262 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者が
- 6263 korepirikap※3
コロ エピリカフ
持つ それについて 善いこと
正しかったの
- 6264 ne kusu,
ネ クス
である 故に
だから、
- 6265 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神の 意図+(挿入音)+として
神のお陰で(神の意志によって)
- 6266 shiknu kuni p
シクヌ クニ ッ
生きる はずの 者
命をとりとめ
- 6267 tusa kuni p
トゥサ クニ ブ
なおる はずの 者
生き返る
- 6268 heokai?`ari
ヘアン アリ
か ある と
のだろうか』と
- 6269 yainu-an chiki,
ヤイヌ アン チキ
考える・我は なら
思ったら、
- 6270 moimoike boka
モイモイケ ボカ
動く すら
動くことも
- 6271 shikirba boka
シキリバ ボカ
自分を回す(sikiru複) さえも
振り向くことも
- 6272 a-eaikap koroka,
ア エアイカ コロカ
我は・それを 出来ない けれど
わたしはできなかったけれど、
- 6273 keutum otta
ケウトウム オッタ(←オロタ)
心 の所 で
心の中で
- 6274 Pon a-kor yubi
ボン アコ ユビ
小 我・が持つ その兄
わたしの婚約者
- 6275 tu sermak kashi
トゥ セレマク カシ
二つの 背後 の上
の魂の背後に憑く

- 6276 re sermak kashi
レ セレマク カシ
三つの 背後で守る神 の上
守り神の上
- 6277 a-ehoribi, ※4
ア エ ホリビ
我は・そこで 踊る
で呪文と唱えながら踊り、
- 6278 semkorachi
セムコラチ
そのごとく
それとともに※5
- 6279 kamui hosarba
カムイ ホサラバ
神 振り返る(←hosari複)
神々が振り返ってくださる
- 6280 kuni ne ari
クニ ネ アリ
ように と
ようにと
- 6281 yainu-an kane.
ヤイヌ アン カネ
考える・我は 状態だ
わたしは念じました。

※2 原綴は itube tube で-anが脱落。

※3 参考:「a-kor-e-pirika-p<われ・持つ・それについて・善い・こと>」(金I-377)

※4 「e-horipi<そこに(呪文を唱えて)踊る>」(金I-168) <そこを・踊る>」(金II-229)、「~が力足を踏む」(金I-350)、「(の背後)を力足を踏む」(研W567)。

※5 参照:「それとともに」(金II-262, 金田一兼録、日高・新説、サンキロット(和名留吉)所伝ボロイナ)。

5-7 解放される二人	6299 a-atnikoro ア アツ ニコロ 我が・綱の隙間 グルグル巻きにされている綱の隙間に	6317 bichish-an koro ビ チシアン コロ かすかに泣く・我らは ながら わたしたちは忍び泣いて
6282 Hontomo ta ホントモ タ その半ば に そのとたん	6300 tam kushbare. p.140 タム クシバレ 刀 通す+(複数語尾)+(使役) 刀を通しました。	6318 okai-an. オカイアン いる・我らは いました。
6283 kamuinishka※1 ta カムイニシカ タ 神(美称)雲上 に 天空上で	6301 Kani itoat※3 カニ イトアツ 金属の糸紐 かまわ 金輪が	6319 Pon a-kor yubi ボン アコロ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者は
6284 kanakatkorbe カナカツコロベ(←カナク カツ コロ ベ) 如何なる形有する者 何者か	6302 tui hum konna トゥイ フム コンナ 切れる音(調律) 切れる音が	6320 shinki rui be シンキ ルイ ベ 疲労 が激しい者 疲れきっている
6285 inotoorke イノトオロケ(←イトウ オロケ) 生きている霊の所 の魂の	6303 chauchawatki ※4 チャウチャウツキ(←チャウ チャウ アツキ) チャウ+(重複)~という音が何回も鳴り続く チャリンパキンと鳴りわたり、	6321 konep ne kusu, コネッ ネ クス (調律、強調)であるもの である 故に ものだから、
6286 hobuni humi ホブニ フミ 起き上がる その音 出立する音が	6304 a-santek kashi ア サン テッ カシ 我らが・前に出ている手 の上 わたしたちの手の先から	6322 mi kosonte ミ コソンテ 着る 小袖 着ている着物が
6287 keurototke ケウ ロトツケ ゴロゴロ 繰り返す+(自動詞形成語尾) ゴロゴロと鳴りひびいた	6305 a-sanchikiri ア サン チキリ 我らが・前に出ている その足 脚の甲まで	6323 eitumamor エイトウマム オロ それで人の胴体そこに 胴に
6288 yak a-ramu, ヤッ アラム と 我が・~を思う とわたしが思ったら、	6306 konitturine コニツウリ ネ 共に 棒 棹になる 棒棹みたいにこぼわっていたのを	6324 noiba kane, ノイバ カネ ねじれる(←noye複) 状態で よれよれにねじれてまくれあがり、
6289 chip-upsot ta チブ ウフソツ(←ウフソロ) タ 船 懐 に 船内で	6307 a-riterite kane アリテ リテ カネ 我らは・伸ばし 伸ばしする 状態で 柔らかに揺り動かして	6325 kam nubeki カムヌベキ 肉の光 白い肌の光が
6290 Pon a-kor yubi ボン アコロ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者が	6308 tanebo konna タネボ コンナ 今+(指小辞) こそ 今ようやく	6326 shikush toi kunne シクシ トイ クンネ 日差しの塊のように 昼の陽光のように
6291 okembesh emush オケムベシ エムシ 下端 血 下方に沿う 太刀 血糊の刀	6309 heseturiri-amba※5 ヘセトウリリ アムバ 息を伸ばす+(重複)(?) わたしたちはフーッとため息をつき、	6327 komaknatara kane. コマクナタラ カネ 共に 明るく輝く 状態だ あたりに輝いていました。
6292 enaisam konna エナイサム(←エ ナン サム) コンナ それをもって 顔 側 が で顔の脇を	6310 chip umta チッ ウムタ 船 艦 船の艦の方へ	
6293 herkai-herkai ※2 kane ヘ・カイヘレカイ カネ ピカピカ光る 状態で ピカピカ光らせて	6311 ukaeoma-an kane. ウカエオマアン カネ 互いの上 頭位置する・我らは 状態だ 重なり合って向かって行きました。	
6294 yayochakke- ヤヨチャクケ(←ヤイ オ チャクケ) 自身 それについてはじける チツと	6312 Yayikushruibe※6 ヤユイクシ(←ヤイイクシ) ルイベ 恥ずかしさ 強い 者 とても恥じ入っている	
6295 echiu kane エチウ カネ を刺す 状態で 舌打ちしながら、	6313 a-neba kusu, アネバ クス 我ら・である+(複数語尾) 政に わたしたちだから、	
6296 emush kemihi エムシ ケミヒ 太刀 その血 刀の血を	6314 Pon a-kor yubi ボン アコロ ユビ 小 我・が持つ その兄 わたしの婚約者	
6297 birba, tap orowa ビルバ タッ オロワ 拭く(←piru複) それ から 何度もぬぐってから、	6315 kamui ne am be カムイネ アム(←アン) ベ 神 のように ある 者 神のようなお方	
6298 tun a-ne wa トゥン アネ ワ 二人の 我ら・であって わたしたち二人が	6316 a-eoribak wa アエオリバク ワ 我らはにかしこまる して に恐縮して	

※1 kamu-n'shka「<天空・上>天空の上」(金 I-330)、kamui-nish-ka「<神・空・上>大空さして」(語法)、kamuy-n's「<神・空>神のいる天、上天」(田272)

※2 herka-herka「びかりびかり光る」(久84)、herka paye「きらきらしてゆく」(金 I-258)

※3 ani itoat「既訳例」金の糸(金 IV-314)、金の繩(金 21-60)、菅野茂訳「金の糸紐」(教 IX-119)

※4 「ぶんぶん立つる」(研 414)、「ざわざわと(鳴)る」(教 IX-119)

※5 -an の誤記?

※6 yayikush「yay-ikush 恥し入る(金 I-145)、悔いる(金 I-293)、危うい、恥ずかしい、ひやっとした(金 V-204)」